

日本民俗学研究史年表

福 田 ア ジ オ

- 1 本年表は、明治以降における日本民俗学の形成、発展の過程を知るために作成したものであり、民俗学に関連する主要論文著書の発表、学会組織や活動に関する重要事項等を、柳田国男の活動とそれ以外の民俗学の動向の二つの欄に区分して、年月順に記した。
- 2 本年表では、事項間の関連性を容易に理解できるように、ある著書論文に対する批判、反論あるいはそれをめぐる論争、調査結果としての報告書や研究書の刊行等、関連事項はできるだけ一括して記載した。
- 3 柳田国男の著述および活動は別欄にしたが、民俗学に関する共著、共編、共同事業のものは民俗学の欄に記した。
- 4 柳田国男、折口信夫の著書については、それぞれが収録されている『定本柳田国男集』『折口信夫全集』の巻数を示した。
- 5 本年表の作成に際しては、『定本柳田国男集』別巻5、『折口信夫全集』31巻その他の著作集、記念論文集等の年譜、著作目録を参考にしたが、可能なかぎり実物あるいは第一次資料にあたって確認をした。
- 6 年表中の記号、略語は次の通りである。
 - ～ 事項の継続期間を示す
 - その事項の結果を示す
 - 月を示す
 - 『 』 単行本の書名、雑誌名
 - 「 」 論文題目
 - 定本 定本柳田国男集
 - 全集 折口信夫全集
- 7 本年表は、いうまでもなく、完全なものではない。多くの重要な事項が脱け落ち、また誤りもあることと思う。お気付きの点があればご教示いただきたい。

西暦	和暦	柳田国男・柳田国男論	民 俗 学
1868	明治元年		
1869	2		
1870	3		
1871	4		
1872	5		
1873	6		
1874	7		
1875	8	⑦兵庫県神東郡田原村 (現神崎郡福崎町)辻川 で出生。	
1876	9		
1877	10		⑤司法省『民事慣例類集』
1878	11		
1879	12	○辻川の昌文小学校に入 学。	
1880	13		⑦司法省『全国民事慣例類集』(10年版の増 補)
1881	14		
1882	15		
1883	16	○昌文小学校卒業。高等 小学校に入学。	
1884	17		⑩坪井正五郎・白井光太郎・福家梅太郎ら 人類学会を設立(会員10名)。
1885	18	○高等小学校卒業。	
1886	19		②人類学会『人類学会報告』(月刊)創刊。 ③渡瀬莊三郎「我国婚礼ニ関スル諸風習ノ 研究」(人類学会報告2) ⑥人類学会を東京人類学会と改称、機関誌 は『東京人類学会報告』となる。
1887	20	⑧上京。茨城県北相馬郡 布川町で医師をしていた 長兄鼎の家に身を寄 す。	③坪井正五郎「削り掛けの種類及び沿革」 (東京人類学会報告13) ⑧『東京人類学会報告』を『東京人類学会 雑誌』と改称(～1911⑬)。
1888	21		②～⑤「年始風俗彙報」(東京人類学会雑誌 3-24・25・26・27)。24号に坪井正五郎 「年の始の風俗習慣に付きて」を置き、 次いで各地の事例報告。
1889	22		②『風俗画報』(月刊)発刊(～1916④478 号で終刊)。

1890	23	⑪『しがらみ草子』にはじめて短歌を発表。 ○冬布川より上京し、兄井上通泰宅に身を寄す。	⑥山中笑「門戸に掲出す御守の話」(東京人類学会雑誌4-40) ⑤下沢保躬「陸奥弘前、風俗一斑」(東京人類学会雑誌5-50) ⑩～翌年③田代安定「薩南諸島ノ風俗余事ニ就テ」(東京人類学会雑誌6-55・56・57・60)
1891	24	○開成中学校に編入学。	③鈴木劬太郎「遺風研究の中正月十四日十五日の風習儀式」(東京人類学会雑誌6-60) ⑫穂積陳重『隠居論』
1892	25	①松浦萩坪の門に入り、短歌を学ぶ。田山花袋と知りあう。 ○郁文館中学校に転校。	⑩坪井正五郎帝国大学理科大学において人類学の講義を担当。
1893	26		⑦東京麹町の明治義会において人類学夏期講習会開く。坪井正五郎講演。 ⑦第1回土俗会開催(はじめ、夏期講習会聴講者による談話会として鳥居龍蔵の提案で開始。第1回は「日本各地新年の風習」という題で鳥居の司会。以後1900まで6回開催。題目は、第2回が「諸地方贈答の風習」、第3回が「各地方の若者が一年中の楽とせるものゝ種類」、第4回は「育児風俗」、第5回が「日本諸地方の食事に関する事実」、第6回が「各地方年中行事中其地に特有にして他に向って誇るに足るべきものは何か」)。
1894	27	⑨第一高等中学校に入学。	②坪井正五郎「土俗調査より生ずる三利益」(東京人類学会雑誌9-95) ⑤伊能嘉矩「奥州地方に於て尊信せらるゝオシラ神」(東京人類学会雑誌9-98)
1895	28		
1896	29	⑦母たけ死去。 ⑨父操死去。	⑨宮島幹之助「越後国三面村の土俗」(東京人類学会雑誌11-126)
1897	30	⑦第一高等学校(第一高等中学校改称)卒業。 ⑨東京帝国大学法科大学政治科入学。	④中井伊与太・曾木嘉五郎「阿波国祖谷土俗調査」(東京人類学会雑誌12-133)
1898	31		
1899	32		③坪井正五郎「人類学上土俗調査の範囲」

1900	33	⑦東京帝国大学政治科卒業。	(東京人類学会雑誌14-156)
		⑦農商務省農務局に勤務。同時に大学院に籍を置く。	③吉田東伍『大日本地名辞書』全5巻刊行開始(～1907⑩)。
1901	34	⑨早稲田大学で「農政学」を講義はじめる(～1904)。	⑦水越正義「伊豆国新嶋の土俗を調査し本邦古代の遺風多き所以を論ず」(東京人類学会雑誌15-172)
		⑤柳田家の養嗣子として入籍。養父柳田直平は信州飯田藩出身、大審院判事。	⑩加藤三吾「沖縄の『オガミ』并に『オモロ』双紙に就て」(東京人類学会雑誌16-175)
1902	35	②法制局参事官	②③大田才次郎『日本全国児童遊戯法』全3巻
		⑫『最新産業組合通解』(定本28)	⑤出口米吉「粥杖考」(東京人類学会雑誌16-182)
1903	36	○『農政学』(早稲田大学政治経済科講義録)(定本28)	⑨水越正義「土俗比較説」(東京人類学会雑誌16-186)
		1904 37 ③～⑥「中農養成策」(中央農事報46～49)	①玉置繁雄「阿波木頭山土俗」(東京人類学会雑誌17-190)
1905	38	④柳田直平4女孝と結婚。	⑤穂積陳重『五人組制度論』
		⑤全国農事会(のちの帝国農会)幹事となる。	
1906	39	⑦島崎藤村・田山花袋・国木田独歩らと会合(龍土会)。	⑪出口米吉「忌詞につきて」(東京人類学会雑誌21-236)
		⑥⑨「報徳社と信用組合」(斯民1-2・6)この論文を契機に、「斯民」誌上で岡田良一郎と論争開始。	①出口米吉「門松考」(東京人類学会雑誌21-238)
1907	40	①「小作料米納の慣習を批判す」(中央農事報82)	
		①②「農業用水ニ就テ」(法学新報17-1・2)	⑫芳賀矢一『国民性十論』
		②田山花袋・蒲原有明・島崎藤村らと第1回イブセン会開く。	

1908	41	①兼任宮内書記官 ⑤～⑧九州旅行。⑦宮崎 県椎葉村に1週間滞在 し、狩の故実を聞く。 (→『後狩詞記』) ⑪佐々木喜善が水野葉舟 に連れられてはじめて 訪れる。	②出口米吉「左義長考」(東京人類学会雑 誌23-263)
1909	42	③『後狩詞記』を自家出 版(定本27)。 ⑪「山民の生活」(斯民4 -10)	
1910	43	⑤『石神問答』(定本12) ⑥『遠野物語』(定本4) ⑫『時代と農政』(定本 16)	⑫新渡戸稲造・小田内通敏・小田島省三・ 木村修三・石黒忠篤・柳田国男ら郷土会 創立。 ⑫宮地直一『神祇史』
1911	44	④～⑧「踊の今と昔」(人 類学雑誌27-1・2・ 3・4・5) ⑨～翌年⑫『イタカ』及 び『サンカ』(人類学 雑誌27-6・8, 28- 2)	④『東京人類学会雑誌』『人類学雑誌』と 改称。 ⑫伊波普猷『古琉球』 ⑫上田敏, 京都府教育会第2回冬季講習会 (於京都府立第一高等女学校)で「民俗 伝説」を講演し, folkloreを俗説学と訳 して紹介。
1912	45	④フレーザー『黄金の小 枝』を読みはじめる。	⑤石橋臥波・坪井正五郎・富士川游・三宅 米吉ら日本民俗学会設立(翌年⑤『民俗』 創刊～1915⑤終刊)。
大正 元年			
1913	2	③「巫女考」(郷土研究1 -1, 以後12号まで12 回連載) ⑤「所謂特殊部落ノ種類」 (国家学会雑誌27-5)	③柳田国男・高木敏雄『郷土研究』(月刊) 創刊(翌年④高木は編集より手を引き, 以後柳田が独力で刊行～1917③4巻12号 で終刊)。 ③高木敏雄「郷土研究の本領」(郷土研究 1-1) ⑤南方熊楠「南方随筆」(郷土研究1-3, 以後「南方随筆」「南方雑記」などと題し てしばしば投稿)。 ⑧～⑫高木敏雄「人身御供論」(郷土研究1 -6-10)
1914	3	③「毛坊主考」(郷土研究 2-1, 以後12号まで 11回連載) ④貴族院書記官長 ⑦『山島民譚集』(→(甲	③④高木敏雄「日本農業神話」(郷土研究 2-1・2) ⑥⑧白井光太郎『植物妖異考』上・下(甲 寅叢書) ⑦⑧南方熊楠「『郷土研究』の記者に与ふる

		寅叢書3)(定本27)	書」(郷土研究2-5・6・7),「郷土研究」の内容を批判して,地方制度経済の研究を主張。2-7で「記者申す」として柳田反論。
		⑨「郷土誌編纂者の用意」(郷土研究2-7)	
1915	4	①「夜啼石の話」(日本及日本人646,647)	④⑤折口信夫「髯籠の話」(郷土研究3-2・3)。この論文はあたかも柳田の「柱松考」に触発されて書かれたかのようになっているが;これは柳田による挿入句であり,事実は逆。
		③「柱松考」(郷土研究3-1)	
1916	5	④「村の年齢を知ること」(郷土研究4-1)	⑨⑩早川孝太郎「おとら狐の話」(郷土研究4-6・7)
		⑦「青年団の自覚を望む」(奉公163)	⑫折口信夫「依代から『だし』へ」(郷土研究4-9)
1917	6	③「玉依姫考」(郷土研究4-12)	②南方熊楠「諸君の所謂山男」(郷土研究4-11)
		⑧⑨「一目小僧の話」を東京日日新聞に連載。	
1918	7	⑪~翌年②「村を観んとする人のために」(都市と農村4-11・12,5-1・2)	⑧折口信夫『土俗と伝説』創刊(~翌年①4号で終刊)
			⑧⑨折口信夫「幣束から旗さし物へ」(土俗と伝説1-1・2)
1919	8	⑤「祭礼と世間」を東京朝日新聞に連載(16回)。	①喜田貞吉『民族と歴史』創刊(1923①)『社会史研究』と改題,~1924⑫終刊)。
		⑫貴族院書記官長を辞任。	⑩伊波普猷『沖縄女性史』
1920	9	②『赤子塚の話』(炉辺叢書1)(定本12)	
		②『おとら狐の話』(炉辺叢書2)(定本31)早川孝太郎と共著。	
		②『神を助けた話』(炉辺叢書3)(定本12)	
		⑧東京朝日新聞社客員となる。	
		⑫~翌年②九州・沖縄旅行(『海南小記』の旅)。	
1921	10	①~⑤「聖俗沿革史」(中央仏教5-1~5)	
		③~⑤「海南小記」を東京朝日新聞に連載。	
		⑤国際連盟委任統治委員に就任。アメリカ経由でジュネーヴにおもむ	

		く(→⑩帰国)。	
1922	11	③『郷土誌論』(炉辺叢書)(定本25) ④東京朝日新聞論説班員 ⑤国際連盟委任統治委員会出席のため渡欧(～翌年⑪帰国)。	③伊波普猷『古琉球の政治』 ④南島談話会開催(於一橋如水会館)。参会者は上田万年, 白鳥庫吉, 三浦新七, 新村出, 本山桂川, 移川子之藏, 中山太郎, 折口信夫, 金田一京助, 岩崎卓爾, 喜舎場永珣, 東恩納寛惇, 松本信広, 柳田国男ら。
1923	12	⑫国際連盟委任統治委員辞任。	
1924	13	②朝日新聞社編集局顧問論説担当となる。⑦より社説執筆。 ④慶応義塾大学文学部講師となり, 史学科において民間伝承を講義(～1929)。	
1925	14	④『郷土会記録』(編) ④『海南小記』(定本1) ⑤「史料としての伝説」(史学4-2) ⑤早稲田大学で農民史の講義開始(約2年間)。	⑤日本社会学会『社会学雑誌』創刊。 ③～⑨伊波普猷『校訂おもろそうし』全3巻 ⑨加藤咄堂『民間信仰史』 ⑪柳田国男, 石田幹之助, 田辺寿利, 奥平武彦, 有賀喜左衛門, 岡正雄ら『民族』(隔月刊)創刊(～1929④4巻3号で終刊)。
1926	15 昭和元年	④『日本農民史』(早稲田大学政治経済科講義録)(定本16) ④日本社会学会で「民俗学の現状」を講演。 ⑪『山の人生』(定本4) ⑪「人を神に祀る風習」(民族2-1)	②南方熊楠『南方随筆』 ⑤中山太郎「若者制度の研究」(民族1-4) ⑥佐喜真興英『女人政治考——人類原始規範の研究——』 ⑪南方熊楠『続南方随筆』 ⑪山中共古『甲斐の落葉』(炉辺叢書)
1927	2	①「民謡の今と昔」(『日本文学講座』3) ④～⑦「蝸牛考」(人類学雑誌42-4・5・6・7)この論文で方言周圏説を主張。 ⑨北多摩郡砦村(現世田谷区成城)に転居。	④バーン(岡正雄訳)『民俗学概論』 ⑦民俗芸術の会発足, 柳田国男, 今和次郎, 山崎楽堂, 早川孝太郎, 金田一京助, 中山晋平, 小寺融吉ら参加。⑨に第1回談話会, 翌年①に『民俗芸術』(月刊)創刊(～1932⑨5巻6号で終刊)。 ⑩藤田元春『日本民家史』 ⑪田村浩『琉球共產村落之研究』 ⑫京都民俗談話会設立。第1回例会開催。京都帝大文学部史学科学生および卒業生

1928	3	<p>②『雪国の春』(定本2)</p> <p>④『青年と学問』(定本25)</p> <p>⑧~⑪, 翌年③「木思石語」(旅と伝説1-8~11, 2-3)</p>	<p>中心。</p> <p>①⑤ニコライ・ネフスキ「月と不死」(民族3-2・4)</p> <p>①『民族芸術』(月刊)創刊(～1932⑨5巻6号で終刊)。</p> <p>①『旅と伝説』(月刊)創刊(～1944①17巻1号で終刊)。</p> <p>①③折口信夫「翁の発生」(民俗芸術1-1・3)</p> <p>④山中共古『共古随筆』</p> <p>⑥『民俗芸術』1-6「沖縄芸術の研究」を特集。</p> <p>⑦⑧『民俗芸術』1-7・8「諸国盆踊」を特集。</p> <p>⑧⑨折口信夫「無頼の徒の芸術」(民俗芸術1-8・9)</p> <p>⑨岡正雄「異人その他——古代経済史研究序説草案の控へ——」(民族3-6)</p> <p>⑩『民俗芸術』1-10「祭礼」を特集。</p> <p>⑫方言研究会設立。東條操, 上田万年, 橋本進吉, 折口信夫, 西脇順三郎, 金田一京助, 柳田国男ら出席。</p> <p>⑫中山太郎『日本婚姻史』</p>
1929	4	<p>③『都市と農村』(朝日常識講座6)(定本16)</p> <p>⑤『日本神話伝説集』(定本26)</p> <p>⑥「葬制の沿革について」(人類学雑誌44-6)</p> <p>⑥「野の言葉」(農業経済研究5-2)</p> <p>⑥『民謡の今と昔』(定本17)</p>	<p>①『民俗芸術』2-1「正月行事」を特集。</p> <p>①折口信夫「常世及び『まれびと』」(民族4-2)</p> <p>③民俗学談話会が月1回開催される。第1回は中山太郎「日本の巫女の話」。</p> <p>④『民俗芸術』2-4「人形芝居研究」を特集。柳田国男「人形とオシラ神」, 折口信夫「偶人信仰の民俗化並びに伝説化せる道」, 小寺融吉「人形と人形つかひ」等を収録。</p> <p>④折口信夫『古代研究』民俗学篇1(全集2)</p> <p>⑤京都民俗談話会例会で西田直二郎「日本民俗学に就いて」を講演。</p> <p>⑥『民俗芸術』2-6「郷土舞踊と民謡」を特集。</p> <p>⑥~翌年①日本放送協会東北支部「東北土俗講座」を放送。内容は, 柳田国男「東北と郷土研究」, 折口信夫「東北文学と民俗学との交渉」, 中山太郎「東北は土</p>

⑩「聾入考」(『三宅博士
古稀祝賀記念論文集』)

①「魚王行乞譚」(改造12
-1)

①『歌・俳句・諺』折口
信夫, 高浜虚子と共著
(定本21)。

③『日本昔話集』(定本
26)

④東京人類学会例会で
「社会人類学の方法と
分類」を講演。

④~⑦⑨「昔話新釈」(旅
と伝説3-4~7・9)

⑦『蝸牛考』(定本18)

俗学の宝庫」, 金田一京助「言語と土俗
・巫女と座頭」等。→⑥『東北の土俗』

⑦中山太郎『祭礼と風俗』

⑦民俗学会(③発足の民俗学談話会を母胎
としたもの)が『民族』を引き継ぐ形で
『民俗学』(月刊)発刊。学会委員は会津
八一, 秋葉隆, 有賀喜左衛門, 宇野円空,
岡正雄, 折口信夫, 金田一京助, 中山太
郎ら, 柳田は不参加。

⑨有賀喜左衛門「民俗学の本願」(民俗学1
-3)

⑨『民俗芸術』2-9「田遊び祭りの研究」
を特集。

⑩第1回民俗学会大会(於東京学士会館)

⑪折口信夫「民俗学学習の基礎」(民俗学
1-5)

⑪『民俗芸術』2-11「人形芝居」を特集。

⑫中山太郎「『さんばい』考——我国に於け
る穀神信仰の推移——」(旅と伝説2-
12)

①『民俗芸術』3-1「獅子舞研究」を特
集。

②高崎正秀「金太郎誕生縁起」(民俗芸術
3-2)

③『民俗芸術』3-3「花祭りの研究」を
特集。折口信夫「山の霜月舞——花祭り
解説——」, 早川孝太郎「歌舞を基調と
する祭り」その他を収録。

③早川孝太郎『花祭』

⑥折口信夫『古代研究』民俗学篇2(全集
3)

⑦中山太郎『日本若者史』

⑧⑩翌年⑥~⑨折口信夫「年中行事——民
間行事伝承の研究——」(民俗学2-8・
10, 4-6~9)

⑧早川孝太郎「伝承保有者の一面」(民俗
学2-8)

⑧小寺融吉「盆踊の型の記述法」(民俗芸術
3-8)

⑩有賀喜左衛門, 池上隆祐, 中村吉治ら『郷
土』創刊。長野県中心の雑誌。

⑩『民俗芸術』3-10「六斎念仏調査記録」

			を特集。
		⑩中山太郎『日本民俗学』全4巻刊行開始 (⑩に「神事篇」と「風俗篇」, ⑪に「歴史篇」, 翌年⑪に「随筆篇」)。	
		⑪ベヤリング・グウルド(今泉忠義訳)『民俗学の話』	
		⑪宮良当壮『八重山語集』	
		⑪『民俗芸術』3-11「神事舞解説」を特集。	
1931	6	①『明治大正史・世相篇』(定本24)	①折口信夫「春来る鬼」(旅と伝説4-1)
		③⑥水木直箭「柳田先生著作年譜」(旅と伝説4-3・6)	③岡村千秋により『郷土研究』(月刊)復刊 (~1934④7巻7号で終刊)。
		④「行商と農村」(農業経済研究7-2)	③④肥後和男「鞍馬の竹切について——山の神と素盞鳴尊——」(民俗学3-3・4)
			④『旅と伝説』4-4「昔話号」を特集。
			⑤橋浦泰雄『東筑摩郡道祖図絵』
			⑤⑥肥後和男「山の神としての素盞鳴尊」 (民俗学3-5・6)
		⑦「厄介及び居候」(社会経済史学1-2)	⑤⑥赤松啓介(栗山一夫)「村の記録」(民俗学3-5・6)
		⑧神宮皇学館夏期講習会で「欧州諸国における民俗学の歴史」「郷土史研究法」などを講義。	⑦『民俗芸術』4-4「童戯・童謡・童詞」を特集。
		⑨「郷土科学に就いて」, 「郷土研究の将来」(『郷土科学講座』)	⑨『民俗芸術』4-5「祭礼」を特集。
		⑫『日本農民史』(定本16)	⑨中国民俗学会創立。『中国民俗研究』創刊。
			⑨早川孝太郎「民間伝承の採集」(『郷土科学講座』1)
			⑪羽仁五郎「郷土なき郷土科学」(郷土科学13)
1932	7	①「食物と心臓」(信濃教育543)	①雑誌『俚俗と民譚』創刊。
		④『口承文芸大意』(岩波講座日本文学11)(定本6)	②竹内利美ら雑誌『路原』創刊(~1938⑪4巻1号で終刊)。
		④「郷土生活の研究法」の会を開く。有賀喜左衛門, 池上隆祐, 熊谷辰次郎, 大藤時彦らが参加。	②本田安次「陸前五郡の法印神楽」(民俗芸術4-6)
		⑤⑥「地名の話」(地理学評論8-5・6)	③宮本常一「村の移転と話の運搬」(郷土研究6-1)
			④雑誌『ドルメン』創刊(~1935⑧4巻8号で休刊, 1938⑪再刊~翌年⑨5巻7号で終刊)。

1933

8

⑦「盲と文芸」(中央公論 47-7)

⑦第6回民俗学会大会で「フォクロアの蒐集と分類」を講演。

⑧JOAKの第1回関東郷土講座で「最近における郷土研究の趨勢」を放送。

⑪『日本の伝説』(定本 26)

⑪『秋風帖』(定本 2)

⑫東京帝大農学部で農業史の時間に民俗学の講義をおこなう(1935②まで)。

⑫『女性と民間伝承』(定本 8)

⑫『山村語彙』

①「郷土研究と郷土教育」(郷土教育 27)

①『桃太郎の誕生』(定本 8)

①『地名の話その他』(定本 3, 20)

③～翌年④「年中行事調査標目」(旅と伝説 6-3～7-4)

④『小さき者の聲』(定本 20)

⑨自宅において「民間伝承論」の講義を開始(毎週木曜日の午前中、⑫まで12回)。出席者は後藤興善、比嘉春潮、大藤時彦、杉浦健一、大間知篤三ら、なお、この会が発展して翌年①からの木曜会となる。

⑪社会経済史学会大会で「食物の変遷」を講演。

⑨京都帝大文学部史学科

⑦『民俗芸術』5-4「盆踊り記録」を特集。

⑧山口麻太郎「綱引考」(郷土研究 6-2)

⑧～翌年④早川孝太郎「民俗採集法」(民俗採集誌)(ドルメン 1-5～8, 2-4)

⑨ジェネップ(後藤興善訳)『民俗学入門』

⑩⑪中山太郎「農民階級と民俗」(民俗学 4-10・11)

⑫金城朝永『異態習俗考』

①中山太郎『日本民俗学論考』

①『旅と伝説』6-1「婚姻習俗」を特集。

③栗山一夫『『旅と伝説』の任務に関して』(旅と伝説 6-3)。労働者農民を対象とした啓蒙雑誌になることを主張。⑤能田太郎「郷土史学のために(フォークロアと本誌の使命)」(旅と伝説 6-5)で栗山提案を批判。

③～翌年④早川孝太郎「案山子のことから」(郷土研究 7-3～7)

⑥早川孝太郎「資料採集の潮時」(民俗学 5-6)

⑦『旅と伝説』6-7「誕生と葬礼」を特集。

⑪金田一京助「関東のオシラ様」(民俗学 5-11)

⑪中山太郎『日本民俗学辞典』

⑪田中喜多見『山村民俗誌——山の生活篇』

①第1回木曜会

1934

9

1935	10	<p>で5回にわたり「民間信仰について」を特別講義。</p> <p>⑤『日本の昔話』(定本26)</p> <p>⑥『一目小僧その他』(定本5)</p> <p>⑦『新語論』(国語科学講座7)(定本18)</p> <p>⑧『民間伝承論』(現代史学大系7)序と第1章のみ自筆,第2章以下は後藤興善の執筆編集。</p> <p>⑩京都帝大で春に続き講義。</p> <p>①『山村語彙続篇』</p> <p>②『国史と民俗学』(岩波講座日本歴史17)(定本24)</p> <p>④「民謡覚書」(文学3-4)</p> <p>④「笑ひの本願」(俳句研究2-4)</p> <p>⑤「採集事業の一劃期」(ドルメン4-5)</p> <p>⑤~翌年④「昔話覚書」(昔話研究1-12)</p> <p>⑧『郷土生活の研究法』(前半のみ定本25)</p>	<p>②本山桂川『海島民俗誌』</p> <p>③本山桂川『史譚と民俗』</p> <p>⑤西角井正慶『神楽研究』</p> <p>⑤柳田の指導する郷土生活研究所による山村調査(正式には日本僻陬諸村における郷党生活の資料蒐集調査)開始。1937④までに全国52か所を調査。調査のために『郷土生活研究採集手帖』(質問項目100)を作成。→1935③『山村生活調査第1回報告書』,1936③『第2回報告書』,1937</p> <p>⑥柳田編『山村生活の研究』</p> <p>⑦中山太郎『日本盲人史』</p> <p>⑦『旅と伝説』7-7「盆行事」を特集。</p> <p>⑧有賀喜左衛門「不幸音信帳から見た村の生活——信州上伊那郡朝日村を中心として——」(歴史学研究2-4)</p> <p>⑪竹内利美『小学生の調べたる上伊那川島村郷土誌』</p> <p>⑫本田安次『陸前浜の法印神楽』</p> <p>⑫『旅と伝説』7-12「昔話」を特集。</p> <p>①日本民族学会『民族学研究』創刊。</p> <p>②~⑤有賀喜左衛門「若者仲間と婚姻——村の生活組織に関連して——」(社会経済史学4-11~5-2)</p> <p>⑤関敬吾『昔話研究』創刊(~1937⑫終刊)。</p> <p>⑦⑨⑩三品彰英「盆踊私考」(旅と伝説8-7・9・10)</p> <p>⑦有賀喜左衛門「田植と村の生活組織——特に予祝行事に就いて——」(民族学研究1-3)</p> <p>⑦~⑧日本民俗学講習会開催(於日本青年館,期間1週間)。参加者126名。内容は柳田「採集期と採集技能」,折口「地方に居て試みた民俗研究の方法」,金田一京助「アイヌ部落採集訪談」,伊波普猷「南島稲作行事採集談」,杉浦健一「民間信仰の話」,桜田勝徳「海の労働について」,関敬吾「昔話の採集」,大間知篤三「冠婚葬祭」,後藤興善「方言研究と郷土人」,橋浦泰雄「協同労働の慣行」,最上孝敬「交易の話」,佐々木彦一郎「民俗学と人文地理学との境」,岡正雄「独逸両国に於ける</p>
------	----	---	---

			<p>民俗学的研究」, 松本信広「仏蘭西に於ける民俗学的研究」→⑫に座談会速記録を付けて, 柳田編『日本民俗学研究』として刊行。この講習会を機に民間伝承の会設立。</p> <p>⑨民間伝承の会『民間伝承』(月刊) 創刊。</p> <p>⑫宮本常一「採集者の養成」(民間伝承1-4)</p> <p>⑫『旅と伝説』8-12「民間療法」を特集。</p> <p>⑫柳田, 今和次郎, 橋浦泰雄, 杉浦健一, 関敬吾ら「民家の座談会」(民間伝承1-4)</p>
1936	11	<p>⑩「史学と世相解説」(国史回顧会紀要27)</p> <p>⑩『産育習俗語彙』</p> <p>①『地名の研究』(定本20)</p> <p>⑤「採集手帖のこと」(民間伝承1-9)</p> <p>⑧『山の神とオコゼ』(定本4)</p> <p>⑧「村の個性」(民間伝承1-12)</p> <p>⑩『信州随筆』(定本22)</p> <p>⑫『国語史新語篇』(定本18)</p>	<p>①②大間知篤三「婚姻習俗採集項目」(民間伝承1-5・6)</p> <p>①『旅と伝説』9-1「食制研究」を特集。</p> <p>②近畿民俗学会『近畿民俗』創刊(～翌年⑤2-2で休刊)。</p> <p>④倉田一郎「生活解説と方言」(民間伝承1-8)</p> <p>④東京人類学会・日本民族学会第1回連合大会開催(於東京帝大理学部)。杉浦健一「民俗の機能的研究とその効果」の発表あり。→⑪『連合大会第一回紀事』</p> <p>⑥アチック・ミュージアム『民具蒐集調査要目』</p> <p>⑧関敬吾・柳田国男共編『昔話採集手帖』</p> <p>⑧中山太郎『続日本盲人史』</p> <p>⑧第2回民俗学講習会開催。柳田国男「伝承と伝説」, 山口貞夫「食制研究の興味」, 野口孝徳「若者組の組織」, 比嘉春潮「沖繩の信仰」, 大藤時彦「頭屋制と宮座」, 瀬川清子「女性と労働」, 西角井正慶「神社と民間伝承」, 折口信夫「儀礼の発生」等。その際の座談会の記録は翌年②『民俗座談』として刊行。</p> <p>⑨⑩倉田一郎「漁村語彙採集要項」(民間伝承2-1・2)</p> <p>⑪⑫関敬吾「昔話採集標目」(民間伝承2-3・4)</p> <p>⑫柴田実「日本民俗学説序」(近畿民俗1-6)</p>
1937	12	①～④「年中行事採集百	①日本民俗学講座開催(1年間常設)。岡正

1938	13	<p>項」(民間伝承2-5~7)</p> <p>③「昔話覚書」(文学5-3)</p> <p>⑤東北帝大で日本民俗学を講義。</p> <p>⑥⑦京都帝大で日本民俗学を講義。</p> <p>⑦『分類農村語彙』</p> <p>⑦『昔の国語教育』(岩波講座国語教育5)(定本19)</p> <p>⑨『葬送習俗語彙』</p> <p>⑫「親方・子方」(『家族制度全集史論篇』Ⅲ所収)</p> <p>④「セビオの方法」(民間伝承3-8)</p> <p>④『禁忌習俗語彙』</p> <p>⑤編『服装習俗語彙』</p>	<p>雄「民俗学序説」, 柳田国男「童神論」, 折口信夫「国文学と民俗学」, 杉浦健一「農村民俗概説」, 関敬吾「昔話研究の意義」等。</p> <p>①野村伝四「大和の垣内」(旅と伝説10-1)</p> <p>②大藤時彦「資料の地方量」(民間伝承2-6)</p> <p>③柳田国男・橋浦泰雄・鈴木棠三ら「交際に関する座談会」(民間伝承2-7)</p> <p>④橋浦泰雄「縦の研究会組織についての一試案」(民間伝承2-8)</p> <p>⑤海村調査(正式には離島及び沿海諸村に於ける郷党生活の調査)開始。1939④までに全国約30カ所を調査。→1938⑥『海村調査報告第1回』, 1949④柳田国男編『海村生活の研究』</p> <p>⑤⑥山口貞夫「食物語彙採集要項」(民間伝承2-9・10)</p> <p>⑥柳田国男編『山村生活の研究』</p> <p>⑧喜多野清一「信州更科村若宮の同族団」(民族学研究3-3)</p> <p>⑪倉田一郎「かんだら攷」(民間伝承3-3)。同論文に対し⑫山口麻太郎「カンダラ異考」(同3-4)で批判し, それを翌年①倉田「学問と方法」(同3-5)で反論, ③山口が「民俗学の対象」(同3-7)で再批判して, 民俗学の性格に関する論争となる。</p> <p>①④有賀喜左衛門「さなぶり——田植と村の生活組織——」(民族学研究4-1・2)</p> <p>③高橋文太郎「伝説取り扱いについての疑問」(民間伝承3-7)</p> <p>④関敬吾「昔話研究に於ける民俗学の役割」(旅と伝説11-4)</p> <p>⑤赤松啓介(栗山一夫)『民俗学』(三笠全書)。柳田民俗学を小ブル的と批判し, マルクス主義民俗学の樹立を意図する。</p> <p>⑤大藤時彦「村誌編纂の栞」(民間伝承3-9)</p> <p>⑥肥後和男『近江に於ける宮座の研究』(東京文理科大学文科紀要16)</p>
------	----	--	---

⑫『昔話と文学』(創元選書1)(定本6)

①編『歳時習俗語彙』
②「民俗と酒」(改造21-2)

⑤『稗の未来』(稗叢書2)(定本14)

⑤『木綿以前の事』(創元選書15)(定本14)

⑨『国語の将来』(創元選書25)(定本19)

⑥関敬吾「伝承と記録」(民間伝承3-10)

⑥⑦竹内利美「村の制裁——主として法律的のものについて——」(社会経済史学8-6・7)

⑦~翌年④大藤時彦「日本民俗研究小史」(ひだびと6-7~7-4)

⑧伊波普猷『をなり神の島』

⑨肥後和男『古代伝承研究』

⑨及川宏「信州諏訪塚原村に於ける分家に就いて——所謂末子相続の一例として——」(民族学研究4-3)

⑫柳田国男・倉田一郎『分類漁村語彙』

⑫早川孝太郎「事実の普遍性」(民間伝承4-3)

⑫日本民俗学講座(第6期)終了。第7期を翌年①から予定したが、会場の都合で開講できず、中絶。

②『ひだびと』7-2「女性と民俗」を特集。

③倉田一郎「時局下の民俗学」(民間伝承4-6)

③山村民俗の会「あしなか」創刊。

④⑤関敬吾「民間文芸モチーフ分類」(民間伝承4-7・8)

④民間伝承の会主催の「日本民俗学講座」を東京神田の佐藤新興生活館を会場にして開催→翌年③終了。

⑤~⑨大藤時彦「講座日本民俗学」(ドルメン5-4~7)

⑥大藤時彦「大学と日本民俗学」(民間伝承4-9)

⑥山口麻太郎「民俗資料と村の性格」(民間伝承4-9)。「山村生活の研究」の資料整理の方法を批判。この論文の後に関敬吾が「批判に答へて」を書いて反論。⑪山口「再び民俗資料と村の性格に就いて」で再批判し、同誌で関が「再批判に答へる」を執筆。

⑥フレイザー(永橋卓介訳)『サイキス・タスク』

⑩河村只雄『南方文化の探究』

⑩倉田一郎「採集技術の基礎」(民間伝承5

1940	15	<p>⑫『孤猿随筆』(創元選書38)(定本22)</p> <p>④『食物と心臓』(創元選書45)(定本14)</p> <p>⑤「大家族と小家族」(婦人公論25-5)</p> <p>⑤『民謡覚書』(創元選書47)(定本17)</p> <p>⑧『妹の力』(創元選書55)(定本9)</p> <p>⑨『伝説』(岩波新書)(定本5)</p> <p>⑩「農業生活と水」(帝国農会報30-10)</p> <p>⑩「甲賀三郎の話」(文学8-10)</p> <p>⑪『野草雑記』『野鳥雑記』(定本22)</p>	<p>-1)</p> <p>⑩倉田一郎「生活方法」(ひだびと7-10)</p> <p>①~翌年⑧サンチーヴ(山口貞夫訳)「フォークロア概説(ひだびと8-1~9-8)</p> <p>②後藤興善「サンチーヴの民俗資料分類案」(旅と伝説13-2)</p> <p>④井上万寿蔵「日本民俗学に望む」(旅と伝説13-4)。これに対し⑤関敬吾「民俗学体系のこと」(民間伝承5-8)で反論。</p> <p>④柳田国男・柳宗悦・比嘉春潮・式場隆三郎座談会「民芸と民俗学の問題」(月刊民芸2-4)</p> <p>⑤大藤時彦「民俗学と工芸」(民間伝承5-8)。柳宗悦の民芸運動を批判。⑦柳宗悦「大藤氏への答へ」(同5-10)で反論、その後に大藤「右に答へて」を付載。</p> <p>⑥⑦関敬吾「民俗学の二三の問題」(ひだびと8-6・7)</p> <p>⑦喜多野清一「リンドグレンの『民俗の採集と分析』について」(民族学研究6-2)</p> <p>⑦~翌年⑦大藤時彦「ホフマンクライヤー立案の質問要項」(民間伝承5-10~6-7)</p> <p>⑦柳田国男・谷川徹三・秋田雨雀・風巻景次郎・橋浦泰雄座談会「民俗座談」(日本評論15-7)</p> <p>⑩『文学』8-10「民間文芸の考察」を特集。</p> <p>⑪宮本常一「資料の確実性といふこと」(民間伝承6-2)</p> <p>⑫後藤興善『又鬼と山窩』</p>
1941	16	<p>①日本民俗学の建設と普及の功により第12回朝日文化賞受賞。</p> <p>①~⑨「女性生活史」(婦人公論26-1~9)</p> <p>①『豆の葉と太陽』(創元選書68)(定本2)</p> <p>④~⑤「こども風土記」を朝日新聞に39回連載。</p> <p>⑥東京帝大全校教養部主催の教養特殊講義とし</p>	<p>①宮本常一「民俗採集の補助工作」(ひだびと9-1)</p> <p>②桜田勝徳「黙つて聴いてみたい」(民間伝承6-5)</p> <p>④竹内利美「氏子組織とその変遷——信州上伊那川島村に於ける——」(民族学研究7-1)</p> <p>⑤柳田国男・倉田一郎『分類山村語彙』</p> <p>⑤⑥武藤鉄城「羽後角館地方昔話集」(旅と伝説14-5・6)</p> <p>⑥柳宗悦「民芸学と民俗学」(工芸104)</p>

		て「日本の祭」を7回にわたり講義。→翌年⑫『日本の祭』（定本10）	⑥中山太郎『歴史と民俗』
		⑦「誕生と成年式」（『岩波講座倫理学』7）	⑦最上孝敬「採集手帖の利用に就いて」（民間伝承6-10）
		⑦「標準語と方言」（『国語文化講座』1）	⑦早川孝太郎『農と農村文化』
			⑧肥後和男『宮座の研究』
			⑨民間伝承の会、大政翼賛会の委託により食習調査を開始。
			⑩『国学院雑誌』47-10「民間信仰研究号」を特集。宮地直一、柳田国男、早川孝太郎、鈴木棠三、臼田甚五郎、牛尾三千人、石塚尊俊、宮本常一、岩崎敏夫、桜田勝徳、今野田輔、大藤時彦ら執筆。
		⑪「ことわざ採集の要領」（民間伝承7-2）	⑪『思想』234「民族の問題」を特集。収録論文に古野清人「民族の問題」、関敬吾「民俗学と民族学」。
		⑪「婚姻方式の変遷」（『岩波講座倫理学』12）	⑫関敬吾「民間医学の問題」（民間伝承7-3）
1942	17	②『こども風土記』（定本21）	①②竹内利美「子供仲間と青少年団」（ひだびと10-1・2）
		③『菅江真澄』（創元選書88）	⑥伊波普猷『沖繩考』
		④「日本民俗学」（国民学術協会編『学術の日本』所収）。ただし執筆は大藤時彦。	⑥倉田一郎「『私』の発生」（民間伝承8-2）
		⑤『方言覚書』（創元選書90）（定本18）	⑦倉田一郎『国語と民俗学』
		⑦編『増補風位考資料』	⑦河村只雄『続南方文化の探究』
		⑩「文化と民俗学」（ひだびと10-10）	⑧宮本常一『民間暦』
		⑩『木思石語』（定本5）	⑧柳田国男・関敬吾『日本民俗学入門』序文のみ柳田、本文はすべて関の執筆。詳細な質問文例集。
		⑫『日本の祭』（定本10）	⑧和歌森太郎「八朔考」（民間伝承8-4）
			⑩中山太郎編『校註諸国風俗問状答』
			⑪瀬川清子『海女記』
			⑫江馬三枝子『飛騨の女たち』
			⑫橋浦泰雄『民間伝承と家族法』
1943	18	④『神道と民俗学』（定本10）	①柳田国男・大藤時彦『現代日本文明史・世相史』（現代日本文明史18）。執筆はすべて大藤。
		④『昔話覚書』（定本6）	①和歌森太郎『修験道史研究』
		⑤『族制語彙』	②山口弥一郎「民俗学への思慕」（旅と伝説16-2）
			③能田多代子『村の女性』
			⑤⑥倉田一郎「厄年の問題」（民間伝承9-1・2）

1944	19	<p>⑨柳田国男先生古稀記念会発足。</p> <p>⑪東京都下の原町田（現町田市）に散歩し、土地の材木商陸川某に会い、自分が先祖になるという話を聞く。</p> <p>③『国史と民俗学』（定本24）</p> <p>⑥～⑨「村のすがた」を『週刊朝日』に連載。</p> <p>⑪～翌年⑥「続村のすがた」を連載。</p> <p>⑧『火の昔』（定本21）</p> <p>⑩民間伝承の会主催の古稀の記念会開催。</p> <p>⑩「陰膳の話」を放送。</p>	<p>⑥本山桂川『生活民俗図説』</p> <p>⑥三品彰英『日鮮神話伝説の研究』</p> <p>⑦『民間伝承』9-3「盆祭」を特集。</p> <p>⑦信濃教育会東筑摩部会『農村信仰誌』</p> <p>⑨～⑫山口麻太郎「教育技法としての諺」（民間伝承9-5～8）</p> <p>⑨松平齊光『祭』</p> <p>⑨高木敏雄『日本神話伝説の研究』</p> <p>⑨井上頼寿『京都古習志・宮座と講』</p> <p>⑨柳田国男・浅野晃・橋浦泰雄座談会「民間伝承について」（文芸春秋21-9）</p> <p>⑨⑫倉田一郎「漁獲物分配とその問題」（民族学研究9-9・12）</p> <p>⑩太田陸郎『支那習俗』</p> <p>⑫有賀喜左衛門『日本家族制度と小作制度』</p> <p>①柳田先生古稀記念事業として『民間伝承』は毎号特集を組む。10-1は氏神、以下②誕生、③生死観、④錬成と遊戯、⑤生産方式、⑥家、⑦社交と協同、⑧祖霊。</p> <p>②鳥越憲三郎『琉球古代社会の研究』</p> <p>④堀一郎『遊幸思想——国民信仰之本質論』</p> <p>⑤柳田国男・三木茂『雪国の民俗』</p> <p>⑤P. サンティエーヴ（山口貞夫訳）『民俗学概説』</p> <p>⑤大藤ゆき『児やらひ』</p> <p>⑥日本歴史地理学会編『郷土史研究の調査と方法』。所収論文に関敬吾「民俗学と郷土文化の問題」、倉田一郎「祭事の研究法」、大藤時彦「民間伝承資料の取扱ひ方」。</p> <p>⑦倉田一郎『農と民俗学』</p> <p>⑧風早八十二編『全国民事慣例類集』</p> <p>⑧山口貞夫『地理と民俗』</p> <p>⑧『民間伝承』休刊（10-7・8）。</p> <p>⑪大間知篤三『家と民間伝承』</p>
		<p>③「特攻精神をはぐくむ者」（新女苑9-3）</p> <p>⑧15日の日記に「大詔出づ、感激不止」とのみ記す。</p> <p>⑨『村と学童』（定本21）</p> <p>①『笑の本願』（定本7）</p> <p>①②④「喜談日録」（展</p>	
1945	20		
1946	21		

		望1, 2, 4)	
		④『先祖の話』(定本10)	⑧『民間伝承』復刊(11-1)。共同課題として祭祀と婚姻を発表。
		⑦『毎日の言葉』(創元選書114)(定本19)	⑨女性民俗学研究会編『女の本』
		⑩『物語と語り物』(定本7)	⑨⑩『民間伝承』の復刊と柳田国男古稀記念文集刊行記念の日本民俗学講座開催。 →翌年⑩民俗学研究所編『民俗学新講』。
		⑪『家閑談』(定本15)	⑫倉田一郎「前代生活の論理について」(思想の科学3)
1947	22	⑫『祭日考』(新国学談1)(定本11)	①『日本民俗学のために』全10輯刊行開始。
		①「むかしの恋」(婦人公論31-1)	③民俗学研究所設立。従来の木曜会は民俗学研究所例会となる。
		①『口承文芸史考』(定本6)	⑤六学会連合大会開催。
		⑤『柳田国男先生著作集』全12巻刊行開始(～1953③)	⑤民俗学研究所世話人会開催。
		⑥『山宮考』(新国学談2)(定本11, 22)	⑥民俗学研究所第1回代議員会開催。代議員は石田英一郎、柴田勝、瀬川清子、関敬吾、橋浦泰雄、柳田国男、和歌森太郎。
		⑦芸術院会員	⑧山口弥一郎『東北の食習』
		⑧衆議院司法委員会公聴会に学識者代表として出席し、民法改正案審査のための参考意見として婚姻の問題を述べる。「青年男女の配偶者自由選択の精神を生かすためには、社会教育社会機関を整備し国家的交際機関を設ける必要がある」と主張。	⑧和歌森太郎『日本民俗学概説』。民俗学は民俗を史料として民俗史を構成する科学と主張。
		⑧『俳諧評釈』(定本17)	⑩『民間伝承』11-10・11「折口信夫博士還暦記念特輯」。大藤時彦「折口先生と民俗学」、大場盤雄・今泉忠義・西角井正慶「国学院大学郷土研究会略史」、柳田国男・折口信夫・穂積忠「仙石鼎談」等。
		⑪『氏神と氏子』(新国学談3)(定本11)	⑪志村義雄「柳田民俗学の史観——日本民俗学前進のために——」(評論16)
1948	23	①「平和のために何をなすべきか何をなしつつあるか」(婦人の友43-1)	⑪倉田一郎「常民の哲学——調査と分析——」(思想の科学2-2)
			⑪和歌森太郎『日本民俗論』
			⑫柳田国男編『沖繩文化叢説』
			①松村武雄『言語と民俗』
			①『民間伝承』12-1「社会科と民俗学」を特集。
			②『民間伝承』12-2「社会悪と伝承」を特集。
			②石田英一郎「歴史科学としての民俗学と民族学」(人文2-1)
			③倉田一郎『経済と民間伝承』
			③太田三郎『東奥紀聞』

1949	24	<p>⑤東京書籍株式会社の小学・中学国語教科書の監修をひきうける(～1960⑨)</p> <p>⑥『西は何方』(定本19)</p> <p>⑦「社会科教育と民間伝承」(民間伝承12-7)</p> <p>⑦「民俗学研究所の事業に就いて」(民間伝承12-7)</p> <p>⑦『村のすがた』(定本21)</p> <p>⑧『婚姻の話』(定本15)</p> <p>⑨「垣内の話」(民間伝承12-8・9)</p> <p>⑪『北国紀行』(柳田国男先生著作6集)(定本3)</p> <p>①『分類児童語彙』(上)</p> <p>③『年中行事』(定本13)</p>	<p>③日本放送協会編『日本昔話名彙』</p> <p>③『民間伝承』12-3・4「稲と民俗」を特集。</p> <p>④民俗学研究所が財団法人として認可され、再発足。理事は大藤時彦、堀一郎、牧田茂、今野円輔、直江広治の5名。例会とは別に月1回の談話会もはじまる</p> <p>⑤志村義雄「日本民俗学の功罪」(世界文化3-5)</p> <p>⑤志村義雄「批判的に見た民俗学」(文化史研究3)</p> <p>⑥後藤興善『社会科のための民俗学』</p> <p>⑥『民間伝承』12-5・6「文芸と民俗」特集。</p> <p>⑧民俗学研究所第29回例会で、神島二郎によるサムナーの「フォークウエイズ」の報告、関敬吾の「民俗学の方法論」の報告あり、席上柳田国男は「歴史は我々の目的であって方法でない」と発言。</p> <p>⑧志賀義雄『もちはなぜまるいか——科学のあたらしい発展のために——』</p> <p>⑧柳田国男・堀一郎『十三塚考』</p> <p>⑨和歌森太郎「民俗調査法」(社会と学校2-9)</p> <p>⑪関敬吾「民俗学と唯物論」(世界文化3-11) 志村義雄の一連の論文に反論。</p> <p>⑪牧田茂『村落社会』</p> <p>⑪有賀喜左衛門『村落生活——村の生活組織——』</p> <p>①柳田国男・川島武宜対談「婚姻と家の問題」(展望37)</p> <p>①千葉徳爾「農村経済と民俗学」(民間伝承13-1)</p> <p>①②柳田国男・大藤時彦・直江広治・石田英一郎・大間知篤三・関敬吾・最上孝敬・和歌森太郎・折口信夫・桜田勝徳・堀一郎・牧田茂ら座談会「民俗学の過去と将来」(民間伝承13-1・2)</p> <p>②川島武宜「民俗学と法社会学」(民間伝承13-2)</p> <p>②近畿民俗学会『近畿民俗』復刊。</p> <p>④民間伝承の会を日本民俗学会と改称。会</p>
------	----	---	--

- ④「垣内の研究」(農業総合研究3-2)
- ④『北小浦民俗誌』(全国民俗誌叢書1)(定本25)
- ⑤『標準語と方言』(定本18)
- ⑦『祭のはなし』(社会科文庫)執筆は瀬川清子
- ⑫「魂のゆくへ」(若越民俗5-2)
- ⑫『母の手毬歌』(学友文庫1)(定本21)
- ①『老読書歴』(柳田国男先生著作集9)(定本23)
- ①『方言と昔・他』
- ⑥「採訪の新らしい意味」(民間伝承14-8)
- ⑥「南方熊楠」(辰野隆編『近代日本の教養人』)

- 長柳田国男。
- ④岡山民俗学会「岡山民俗」創刊。
- ④「全国民俗誌叢書」刊行開始。
- ④柳田国男編『海村生活の研究』
- ④和歌森太郎「民俗学の方法について」(民間伝承13-4)→⑥⑦関敬吾「民俗学方法の問題——和歌森氏の所論に関連して——」(民間伝承13-6・7)で批判。
- ⑥柳田国男・家永三郎対談「日本歴史閑談」(改造30-6)
- ⑥民俗学研究所編『民俗学の話』, 内容は第1部「伝承と生活」, 第2部「民俗随想」, 第3部「神道のために」の構成。
- ⑩民俗学研究所談話会にて, 千葉徳爾が都市の民俗研究の可能性について発表。それに対し柳田は批判的な見解を表明。
- ⑪和歌森太郎・萩原龍夫『年中行事』
- ⑪民俗学研究所『社会科の諸問題』
- ⑪『歴史学研究』142「歴史学と隣接科学」を特集。古島敏雄「民俗学と歴史学」, 藤間生大「民族学に対する歴史研究家としての若干の要望」, 本田喜代治「アメリカ社会=人類学——とくにその文化概念について——」等。
- ⑫柳田国男・折口信夫・石田英一郎座談会「日本人の神と靈魂の観念そのほか」(民族学研究14-2)
- ②柳田国男・折口信夫・石田英一郎座談会「民俗学から民族学へ」(民族学研究14-3)
- ③日本放送協会編『日本伝説名彙』
- ④関敬吾『日本昔話集成』(全6巻)刊行開始。
- ④宮本常一『ふるさとと生活』
- ⑤石田英一郎『民族学の基本問題』
- ⑥日本民俗建築学会『民俗建築』創刊。
- ⑥民俗学研究所『民俗学研究』第1輯(〜1952⑩第3輯で終刊)。1輯は大間知篤三「足入れ婚と其の周辺」, 和歌森太郎「村の伝承的社会倫理」, 柳田国男「神社のこと」等。
- ⑦瀬川清子『販女』

1951 26

⑩「宝贝のこと」(沖縄文化2-7)

⑩日本民俗学会名誉会員となる。

④下村海南, 長谷川如是閑, 柳田国男三翁喜寿祝賀会が開かれる。

⑤国学院大学大学院で理論神道学の講座をもつ(～1960)。

⑨『大白神考』(柳田国男先生著作集11)(定本12)

⑨『島の人生』(創元選書214)(定本1)

⑩「みろくの船」(心1)

⑩第10回文化勲章を受賞。

⑧石田英一郎「月と不死——沖縄研究の世界的連関性に寄せて——」(民族学研究15-1)

⑧和歌森太郎『中世協同体の研究』

⑨戸川安章『羽黒山伏と民間信仰』

⑪地方史研究協議会創立。参加学会は日本歴史学協会, 史学会, 社会経済史学会, 日本民俗学会等12学会。→翌年③会誌『地方史研究』創刊。

⑪『民族学研究』15-2「沖縄研究特集」

①民俗学研究所編『民俗学辞典』監修者柳田国男, 編纂委員は大藤時彦, 大間知篤三, 直江広治, 堀一郎, 和歌森太郎, 執筆者40名。

③フレイザー(永橋卓介訳)『金枝篇』(全5冊)刊行開始(～翌年⑩)。

③平山敏治郎「史料としての伝承」(民間伝承15-3)。「日本民俗学は日本民族の文化に関して国史の立場から考察」する学問と定義し, 常民は「文化概念」と主張。→⑤千葉徳爾「史料と資料」(同15-5), ⑥牧田茂「民俗の時代性と現代性——日本民俗学の目標について——」(同15-6)で批判。牧田論文は民俗学は現在の民俗を説明し理解する学問であることを強調し, 堀一郎, 和歌森太郎の見解をも批判。それに対し⑧和歌森太郎「民俗学の性格について」(同15-8), ⑨堀一郎「民間伝承の概念と民俗学の性格」(同15-9)が反論し, 翌年②牧田「民俗の現代性——民俗学をして民俗学たらしめるもの——」(同16-2)で再批判。同誌の編集部は牧田論文で打切りを宣言。

⑤『南方熊楠全集』(全12巻)刊行開始(～翌年⑤)。

⑦『民俗学研究』2, 最上孝敬「両墓制について」, 萩原龍夫「家の祭と村の祭」, 宮本常一「亥の子行事」等収録。

⑦にひなめ研究会発足。柳田国男, 折口信夫, 杉浦健一, 松本信広ら参加。

⑩和歌森太郎『歴史と民俗学』

⑪堀一郎『民間信仰』

1952	27	<p>⑥『東国古道記』(定本2)</p>	<p>①牧田茂『生活の古典——民俗学入門——』 ③馬淵東一「沖縄研究における民俗学と民族学」(民間伝承16-3) ⑤⑪柴田実「文化史と民俗学」(文化史学5, 6) ⑥日本民族学協会編『日本社会民俗辞典』(全4巻)刊行開始。 ⑦千葉徳爾「民俗学資料の数学的取扱について」(民間伝承16-7) ⑩『芸能復興』(月刊)創刊。 ⑩『民俗学研究』3, 堀一郎「民間信仰に於ける鎮送呪術について」, 千葉徳爾「座敷童子」, 安間清「福井県大飯郡大島村ニソの杜調査報告」等収録。</p>
1953	28	<p>①「歴史教育について」(改造34-1) ⑤「目的と方法」(民間伝承17-5)</p> <p>⑥『社会科教育法』執筆は和歌森太郎。 ⑥『不幸なる芸術』(定本7) ⑧「日本の笑ひ」(文学21-8) ⑨家永三郎「柳田史学論」(『現代史学批判』)</p>	<p>③宮本常一『日本の村』 ⑤日本民俗学会『日本民俗学』(季刊)創刊(～1957⑨5-2で終刊)。「民間伝承」は一般雑誌として継続される。 ⑤有賀喜左衛門「民俗資料の意味——調査資料論——」(金田一京助博士古稀記念『言語民俗論叢』)。民俗学は個別科学における民俗資料採集の方法論とする。 ⑥民俗学研究所編『年中行事図説』 ⑥和歌森太郎『日本民俗学』。民俗学は民間伝承の比較研究を通じて日本人の心性、生活文化の特色を把握する学問と定義。 ⑨3日折口信夫死去。 ⑪にひなめ研究会編『新嘗の研究』。柳田国男「稲の産屋」, 折口信夫「新嘗と東歌」, 池上広正「田の神行事」等。 ⑪堀一郎『我が国民間信仰史の研究』宗教史編</p>
1954	29	<p>⑤第8回九学会連合大会で「海上の移住」を研究発表。 ⑧「国史教育について」(心7-8) ⑩日本民俗学会主催の80歳の祝賀会開催される。</p>	<p>①本田安次『霜月神楽の研究』 ②山陰民俗学会『山陰民俗』創刊。 ③松村武雄『日本神話の研究』(全4巻)刊行開始(～1958⑥)。 ⑤相模民俗学会『民俗』創刊。 ⑤西岡虎之助『日本文学における生活史の研究』 ⑨柳田国男編『明治文化史・風俗篇』 ⑩『折口信夫全集』(全31巻, 別巻1)刊行開始(～1957④)。</p>

1955	30	<p>⑪NHKで「民俗学の60年」を放送。</p> <p>⑫『月曜通信』（定本13）</p>	<p>⑩牧田茂『海の民俗学』</p> <p>⑩民俗学研究所編『民俗学手帖』。民俗学の各分野の研究上の問題点を述べた入門書。</p> <p>⑩有賀喜左衛門「民俗学——民俗学における村落研究の理論——」（村落社会研究会編『村落研究の成果と課題』）</p> <p>⑪井口之章次『仏教以前』</p> <p>⑫柳田国男編『日本人』。内容は柳田「日本人とは」,「家の観念」,萩原龍夫「伝承の見方・考え方」,「文化のうけとり方」,堀一郎「郷土を愛する心」,「不安と希望」,直江広治「日本人の生活の秩序」,最上孝敬「日本人の共同意識」,大藤時彦「日本人の表現力」,和歌森太郎「日本人の権威観」および執筆者による座談会。</p> <p>④民俗学研究所編『日本民俗図録』</p> <p>④石田英一郎「日本民俗学の将来——とくに人類学との関係について——」（日本民俗学2-4）民俗学が広義の人類学の中で発展すべきことを主張。</p> <p>⑤黒田俊雄「文化史の方法について」（歴史学研究183）民俗学理論を批判。</p> <p>⑤関敬吾『民話』</p> <p>⑤にひなめ研究会編『新嘗の研究』2,原田敏明「部落祭祀と新嘗祭」,堀一郎「奥能登の農耕儀礼について」,松平斎光『とうかんや』の研究」等。</p> <p>⑥民俗学研究所編『綜合日本民俗語彙』（全5巻）刊行開始（～翌年⑩）。</p> <p>⑧千葉徳爾「民俗資料の量に関する一問題」（日本民俗学3-1）</p> <p>⑨橋浦泰雄『日本の家族』</p> <p>⑨堀一郎『我が国民間信仰史の研究』序編・伝承説話編</p> <p>⑨和歌森太郎『美保神社の研究』</p> <p>⑩橋浦泰雄『月ごとの祭』</p> <p>⑫井森陸平「農村習俗復元方法の研究」（金沢大学法文学部論集哲学史学篇3）</p> <p>①石田英一郎『桃太郎の母——比較民族的論集——』</p> <p>①③直江広治「地神と荒神」（日本民俗学3-3・4）</p>
1956	31	<p>⑧「みさき神考」（日本民俗学3-1）</p>	

- ④橋浦泰雄『民俗学問答』
- ⑤中村吉治編『村落構造の史的分析——岩手県煙山村——』
- ⑥社会と伝承の会（原田敏明主宰）『社会と伝承』（季刊）創刊。
- ⑨『日本人の生活全集』（全10巻）刊行開始（～1958②）。
- ⑨原田敏明「会所と部落の宗教」（社会と伝承1-2）
- ⑩第8回日本民俗学会年会は「民俗学の限界について」と題して共同討議。報告は大島建彦「民俗学と国文学」、桜井徳太郎「日本史研究との関連」、牧田茂「『民俗』の意味」→翌年①『日本民俗学』4-2に収録。
- ⑪窪徳忠『庚申信仰』
- ①和歌森太郎『ぼくらの民俗学』
- ①②柳田国男・山室静・本多秋五・杉森久英・荒正人座談会「日本文化の伝統について」（近代文学12-1・2）
- ②潮見俊隆・渡辺洋三・石村善助・大島太郎・中尾英俊『日本の農村』
- ③郷田（坪井）洋文「家の神去来信仰」（日本民俗学4-4）
- ③和歌森太郎『年中行事』
- ③中村吉治『日本の村落共同体』
- ④民俗学研究所代議員会は研究所閉鎖を決議。
- ⑤竹田聰洲・高取正男『日本人の信仰』
- ⑥和歌森太郎「近代地方史研究と民俗学——方法論の問題として——」（地方史研究27）
- ⑥本田安次「獅子舞考」（日本民俗学5-1）
- ⑥瀬川清子『婚姻覚書』
- ⑥西郊民俗談話会『西郊民俗』創刊。
- ⑨『日本民俗学』5-2で終刊。
- ⑩竹田聰洲『祖先崇拜——民俗と歴史——』
- ⑪『郷土研究講座』（全8巻）刊行開始。第1回配本は2〔村落〕大藤時彦「地名」、竹内利美「組と講」、原田敏明「氏子組織」、⑫7〔研究方法上〕大藤時彦「民俗採訪のしかた」、翌年②4〔生業〕早川孝太郎

1958	33	<p>①～⑨「故郷七十年」(口述)を『神戸新聞』に連載。</p> <p>⑧「日本における内と外の観念」(『講座現代倫理』5)</p> <p>⑪『炭焼日記』(定本別巻4)</p>	<p>「稲作りの習俗」, ④6〔文化〕町田嘉章「民謡研究の扱い方についての私見」, 本田安次「芸能」, ⑤5〔社会生活〕和歌森太郎「村の制度と倫理」, 牧田茂「年齢集団」, 宮本常一「村の教育」, ⑧8〔研究方法下〕大藤時彦「郷土取究の目的と意義」, 同「民俗」等を収録。</p> <p>⑪日本常民文化研究所編『日本水産史』</p> <p>①日本常民文化研究所編『日本の民具』</p> <p>①石田英一郎・岡正雄・江上波夫・八幡一郎『日本民族の起源』</p> <p>③大隅半島民俗調査委員会編『大隅半島の民俗』</p> <p>④『日本民俗学大系』(全13巻)刊行開始。編集は大間知篤三, 岡正雄, 桜田勝徳, 関敬吾, 最上孝敬(～1960⑧)。</p> <p>⑤桜井徳太郎『日本民間信仰論』</p> <p>⑥桜田勝徳「村とはなにか」, 関敬吾「年齢集団」, 蒲生正男「親族」等(『日本民俗学大系』3)</p> <p>⑦酒井卯作『稲の祭』</p> <p>⑦日本民俗学会機関誌として『日本民俗学会報』(隔月刊)創刊(→1970①67号より『日本民俗学』と名称変更)。</p> <p>⑫関敬吾「日本民俗学の歴史」, 「歴史科学としての民俗学」(『日本民俗学大系』2)</p> <p>⑫堀一郎「岐路に立つ欧米の民俗学」(日本民俗学会報4)</p>
1959	34	<p>①「民間伝承と文学」(『岩波講座日本文学史』16)代筆。</p> <p>⑪⑫翌年②益田勝実『炭焼日記』存疑(民話14, 15, 17)</p> <p>⑪『故郷七十年』(定本別巻3)</p> <p>⑫花田清輝「柳田国男について」(『近代の超克』)</p>	<p>①村武精一・郷田(坪井)洋文・山口昌男・常見純一・竹村卓二「伊豆新島若郷の社会組織——世代階層制村落の研究——」(民族学研究22-3・4)</p> <p>⑤我妻東策『嫁の天国——志摩の隠居農場制——』</p> <p>⑦石塚尊俊『日本の憑きもの』</p> <p>⑦大藤時彦「古代研究と民俗学」(折口博士記念会紀要1)</p> <p>⑨関敬吾「民俗学——歴史・課題・方法——」(『講座社会学』別巻)</p> <p>⑩高崎正秀『古典と民俗学』</p> <p>⑩千葉徳爾「民俗周囲論の展開」(日本民俗学会報9)</p>

1960	35	<p>⑤千葉市の教育館で「日本民俗学の頽廃を悲しむ」と題して講演。</p> <p>⑩「鼠の浄土」(伝承文化1)</p>	<p>①『民俗文学講座』(全6巻)刊行開始(～⑧)。</p> <p>④ヴァルター・ディナー(川端豊彦訳)『民俗学入門』</p> <p>④『西郊民俗』13「無縁仏」を特集。</p> <p>④和歌森太郎編『くにさき——西日本民俗・文化における地位——』, 1970③までに全9冊の民俗調査報告書を刊行。</p> <p>⑥蒲生正男『日本人の生活構造序説』</p> <p>⑧『日本民俗学大系』13〔日本民俗学の調査方法・文献目録・総索引〕</p> <p>⑩安藤精一『近世宮座の史的研究』</p> <p>⑫本田安次『図録日本の民俗芸能』</p>
1961	36	<p>①『文学』29-1「柳田国男」を特集。寺田透「うぶすなと呪詞神」, 益田勝実「炭焼き翁と学童」, 相馬庸郎「柳田民俗学の文学性」, 広末保「柳田国男に拠って」, 東畑精一「農政学者としての柳田国男」等を収録。</p> <p>⑦『海上の道』(定本1)</p>	<p>②石塚尊俊「民間伝承の地方差とその基盤」(日本民俗学会報16)</p> <p>③窪徳忠『庚申信仰の研究——日中宗教文化交渉史——』</p> <p>④『地方史研究』50特集「戦前・戦後の研究史の歩み」に民俗学の動向として, 桜田勝徳「戦前の民俗学の研究」, 西垣晴次「戦後における民俗学の歩み」を収録。</p> <p>⑥まつり同好会『まつり』創刊。</p> <p>⑥原田敏明『神社——民俗学の立場からみる——』</p> <p>⑥宮本常一『都市の祭と民俗』</p> <p>⑦神島二郎「民俗学の方法論的基礎——認識対象の問題——」(文学29-7)</p> <p>⑧国分直一「双分社会から四分社会へ——蓋井島の『山』の組の形成——」(日本民俗学会報19)</p> <p>⑫桜田勝徳「民俗学と技術史との関係」(日本民俗学会報22)</p>
1962	37	<p>①『定本柳田国男集』(全31巻, 別巻5)刊行開始(～1964⑪別巻4まで刊行, 1971⑤別巻5刊行)。</p> <p>④橋川文三「保守主義と転向——柳田国男・白鳥義千代——」(『共同研究転向』下)</p> <p>⑤日本民俗学会主催の米</p>	<p>③桜井徳太郎『講集団成立過程の研究』</p> <p>④桜井徳太郎「齋忌習俗の解体過程——常民生活における神仏の影響——」(伊東多三郎編『国民生活史研究』5)→翌年③石塚尊俊「信仰伝承の解体をめぐる問題——桜井徳太郎氏の批判に答えて——」(日本民俗学会報27)で反論。</p> <p>⑤民俗芸能学会『民俗芸能』創刊。</p>

		<p>寿祝賀会開かれる。柳田国男賞の制定発表される。</p> <p>⑧ 8 日死去。12 日日本民俗学会葬。</p> <p>⑩ 山口昌男『『柳田に弟子なし』』(論争18)</p> <p>⑫ 谷沢永一『『時代ト農政』前後』(国語と国文学39-12)</p>	<p>⑨ 宮本常一「瀬戸内海文化の基盤」(民族学研究26-4)</p> <p>⑪ 竹村民郎「柳田民俗学の軌跡」(日本史研究63)</p> <p>⑫ 『民族学研究』27-1「最近の沖縄研究」を特集。</p>
1963	38	<p>② 安永寿延「民族の発見——柳田国男の方法——」(文学31-2)</p>	<p>③ 千葉徳爾「民俗学における地域の問題」(人類科学15)</p> <p>③ 千葉徳爾「民俗周囲論の検討」(日本民俗学会報27)</p> <p>③ 岩崎敏夫『本邦小祠の研究——民間信仰の民俗学的研究——』</p> <p>③ 和歌森太郎「民俗資料の歴史的意味」(東京教育大学文学部紀要41)</p> <p>④ 『まつり』5「田楽の研究」を特集。</p> <p>④ 関敬吾編『民俗学』</p> <p>⑤ 宮田登『『生き神』信仰の発見』(日本民俗学会報28)</p> <p>⑦ 小野重朗「民家の構造と周囲論」(日本民俗学会報29)</p> <p>⑦ 伊藤幹治『稲作儀礼の類型的研究——日・琉基層文化の構造——』</p> <p>⑨ 宮本馨太郎「民具研究の回顧と展望」(物質文化2)</p>
1964	39	<p>⑪ 『分類祭祀習俗語彙』</p> <p>①②④ 後藤総一郎「柳田国男論——柳田学の思想と学問——」(思想の科学22, 23, 25)</p>	<p>① 益田勝実編『民俗の思想』(現代日本思想大系30)</p> <p>③ 竹田旦『民俗慣行としての隠居の研究』</p> <p>③ 中根千枝「ヒキの分析——奄美双系社会の血縁組織——」(東洋文化研究所紀要33)</p> <p>③ 東京教育大学昭史会編『日本歴史論究考古学・民俗学編』。所収論文は千葉徳爾「民俗の地域差と地域性」、桜井徳太郎「在来信仰と仏教信仰の接触変容」、竹田旦「民俗の複合と重層」、北見俊夫「民俗学における村落研究の方途」、宮田登『『民衆宗教』創出の信仰的基盤』、宮原兎一「社会科教育と民俗学」。</p> <p>④ 『西郊民俗』29, 30「贈答特輯」</p>

1965	40	<p>⑥慶応大学言語文化研究所『柳田国男方言文庫目録』</p> <p>⑧橋川文三「柳田国男」(『20世紀を動かした人々』1)</p> <p>⑪『柳田国男対談集』</p> <p>⑦益田勝実編『柳田国男』(現代日本思想大系29)</p> <p>⑦住谷一彦「河上肇と柳田国男」(『河上肇研究』)</p> <p>⑨『民俗学について——第二柳田国男対談集——』</p> <p>⑩山本健吉「柳田国男と日本民俗学」(中央公論80-10)</p>	<p>⑥『日本の民俗』(全11巻)刊行開始(～翌年⑨)。</p> <p>⑧北見俊夫「社会経済史学と民俗学——とくに交通・交易史との関係——」(日本民俗学会報35)</p> <p>⑧鈴木満男「南九州における双分制の特徴をもつ行事の文化史的意味——民俗資料体系化の一つの試み——」(日本民俗学会報35)</p> <p>①小野重朗「民俗分布の同心圏構造について」(日本民俗学会報37)</p> <p>③鳥越憲三郎『琉球宗教史の研究』</p> <p>④『西郊民俗』40「祈願特輯」</p> <p>⑤五来重『高野聖』</p> <p>⑥井之口章次『日本の葬式』</p> <p>⑧牛島巖「欧米における民俗学の諸理論」(東京都立大学社会人類学研究会報2)</p> <p>⑨馬淵東一「波照間島その他の氏子組織」(日本民俗学会報41)</p> <p>⑨田中宣一「年中行事消滅の様相——神奈川県足柄下郡橘町明沢の場合——」(日本民俗学会報41)</p> <p>⑩東京都立大学南西諸島研究委員会編『沖縄の社会と宗教』</p> <p>⑪『折口信夫全集』(全31巻,別巻1)刊行開始(～1968⑥)。</p> <p>⑫文化財保護委員会編『民俗資料調査収集の手びき』</p>
1966	41	<p>③家坂和之「柳田国男の都市論——地方都市研究の序説にかえて——」(東北大学日本文化研究所研究報告2)</p>	<p>①『芸能史研究』12「柳田・折口民俗学と芸能史」を特集。</p> <p>②『高群逸枝全集』(全10巻)刊行開始(～翌年②)。</p> <p>③直江広治『屋敷神の研究——日本信仰伝承論——』</p> <p>③三隅治雄「民謡研究の歴史と民俗学」(芸能8-3)</p> <p>③堀田吉雄『山の神信仰の研究』</p> <p>③桜田勝徳「近頃の物質文化の変貌について」(日本民俗学会報44)</p> <p>③竹村卓二「華南山地栽培民文化複合から見た我が国の畑作儀礼と田の神信仰」(民族学研究30-4)</p>

1967	<p>42 ⑥翌年③中村哲「柳田国男の思想——日本民俗学イデオロギー論——」(法学志林64-1・3)</p> <p>⑩芳賀登「民間史学と地方史——新渡戸稲造と柳田国男を関連させて——」(地方史研究83)</p> <p>②安永寿延「柳田国男——その近代と土着の論理——」(新日本文学22-1)</p> <p>⑤成城大学『柳田文庫蔵書目録』</p> <p>⑨中村哲『柳田国男の思想』</p> <p>⑩綱沢満昭「柳田国男の抵抗精神」(思想の科学67)</p>	<p>③『まつり』10「トシ神」を特集。</p> <p>③日本民族学会編『日本民族学の回顧と展望』。民俗学に関連するものとしては大林太良・山田隆治「歴史民族学」、蒲生正男「社会人類学」、宮本馨太郎「物質文化の民族学的研究」、関敬吾「民族学と民俗学」、江守五夫「社会構造」、平山敏治郎「民間伝承」、村武精一「琉球奄美の社会人類学」等。</p> <p>④日本民族学会第5回研究大会シンポジウム「戦後日本民族学の性格と位置づけ」開催。報告の一つとして坪井洋文「戦後における日本民族学と民俗学」。</p> <p>⑨平山和彦「村寄合における議決法——全会一致制と多数決制について——」(共同体の比較研究5)</p> <p>⑨千葉徳爾「生業の民俗について」(日本民俗学会報47)</p> <p>⑩日本民俗学会編『離島生活の研究』</p> <p>⑪千葉徳爾『民俗と地域形成』</p> <p>②大塚民俗学会『民俗学評論』創刊。</p> <p>③竹田聰洲「常民という概念について——民俗学批判の批判によせて——」(日本民俗学会報49)</p> <p>③『宮本常一著作集』(全50巻)刊行開始。</p> <p>③及川宏『同族組織と村落生活』</p> <p>③直江広治『中国の民俗学』</p> <p>⑥関敬吾「欧米における民俗学の諸傾向——地域民族学としてのVolkskunde——」(民族学研究32-1)</p> <p>⑦大間知篤三『婚姻の民俗学』</p> <p>⑨新井恒易「東海の猿楽田楽」(まつり13)</p> <p>⑩『史潮』100号の特集「日本近代史学史へのアプローチ」の一部として「歴史研究と民俗学」を組む。収録論文は福田アジオ「封建村落史研究と民俗学」、平山和彦「近代史と民俗学」、宮田登「地方史研究と民俗学」、河上一雄「柳田民俗学ノート」、牛島巖「歴史研究と人類学」</p> <p>⑩大森志郎『歴史と民俗学』</p> <p>⑩村武精一「日・琉族制研究における構造論——柳田民俗学と社会人類学——」(日</p>
------	--	---

1968	43	<p>本民俗学会報54)</p> <p>⑫有賀喜左衛門「先祖と氏神」(民族学研究 32-3)</p> <p>⑫『日本祭礼行事集成』(全6巻)刊行開始。</p> <p>⑫小野重朗「民俗変遷についての一仮説」(日本民俗学会報55)</p> <p>③『民族学研究』32-4 特集「山」</p> <p>④日本常民文化研究所『民具・マンスリー』(月刊)創刊。</p> <p>⑥西谷勝也『季節の神々』</p> <p>⑦桜田勝徳「技術伝承と民俗調査について」(日本民俗学会報57)</p> <p>⑩坪井洋文『日本民俗社会の研究資料』</p> <p>⑩『民俗学評論』3「社会伝承」を特集し、その一部として研究動向を収録。福田アジオ『「むら」とは何か——民俗学における村落研究の動向と問題点——』, 平山和彦「年齢集団に関する研究動向」, 牛島巖「族制研究の動向——1960年以降の家・家族制度研究を中心として——」。</p>
1969	44	<p>⑪仲松弥秀『神と村——沖縄の村落——』</p> <p>①和歌森太郎『歴史研究と民俗学』</p> <p>①平野実『庚申信仰』</p> <p>③『日本民俗学会報』60「民俗学の方法論」を特集。テーマは重出立証法, 周圈論, 文献資料と民俗資料の三つで, それぞれについて一人が学史的に問題点を要約し, 次いで別の一人が現時点における問題点を提起し, それらについて何人かがコメントをつける形式。</p> <p>③文化庁『日本民俗地図』刊行開始。</p> <p>⑤一志茂樹「民俗学と地方史研究」(信濃21-5)</p> <p>⑥宮本馨太郎『民具入門』</p> <p>⑦祝宮静・関敬吾・宮本馨太郎編『日本民俗資料事典』</p> <p>⑧饒平名健爾「沖縄の民俗調査」(琉大史学1)</p> <p>⑩竹内利美『家族慣行と家制度』</p> <p>⑩千葉徳爾「山の神信仰の一考察——ヲコゼ資料と重出立証法——」(日本民俗学会報65)</p> <p>⑤赤田光男「柳田国男の農民像——農民像から常民像へ——」(伝承と歴史5)</p> <p>⑩鶴見和子「われらのうちなる原始人」(思想の科学別冊1)</p>

1970	45	<p>⑩『日本民俗学会報』「地方別調査研究の現況」と題して県別の研究動向の掲載を開始（未完）。</p> <p>①竹田旦『「家」をめぐる民俗研究』</p> <p>③中根千枝『家族の構造』</p> <p>③宮田登『ミロク信仰の研究——日本における伝統的メシア観——』</p> <p>③岡正雄教授古稀記念論文集『民族学からみた日本』</p> <p>④井之口章次『民俗学の方法』</p> <p>④柴田武『鳥追い歌の変遷』（日本民俗学69）</p> <p>⑦千葉徳爾『地域と伝承』</p> <p>⑩五来重『中世地方史と民俗学』（『郷土史研究講座』3）</p> <p>⑩小野重朗『農耕儀礼の研究』</p> <p>⑩竹田旦『末子相続研究の方法について——野口武徳氏の『仮説』に寄せて——』（民俗学評論5）</p> <p>⑩桜田勝徳『海の宗教』</p> <p>⑩北見俊夫『旅と交通の民俗』</p> <p>⑩～1973⑨宮田登『民間信仰の研究動向』（民俗学評論5～10）</p> <p>⑩宮田登『生き神信仰——人を神に祀る習俗——』</p> <p>⑩原田敏明『宗教と民俗』</p> <p>⑩北見俊夫『市と行商の民俗』</p> <p>⑩橋本鉄男『木地屋の移住史』</p>
1971	46	<p>⑩網沢満昭『近代日本の土着思想』</p> <p>②後藤総一郎『柳田国男の少年体験』（現代の眼12-2）</p> <p>③後藤総一郎『柳田国男のロマン体験』（現代の眼12-3）</p> <p>⑩富木友治『柳田国男——遠野物語をめぐる——』</p> <p>⑩鶴見和子『国際比較に</p> <p>⑩『日本民俗学会報』「地方別調査研究の現況」と題して県別の研究動向の掲載を開始（未完）。</p> <p>①竹田旦『「家」をめぐる民俗研究』</p> <p>③中根千枝『家族の構造』</p> <p>③宮田登『ミロク信仰の研究——日本における伝統的メシア観——』</p> <p>③岡正雄教授古稀記念論文集『民族学からみた日本』</p> <p>④井之口章次『民俗学の方法』</p> <p>④柴田武『鳥追い歌の変遷』（日本民俗学69）</p> <p>⑦千葉徳爾『地域と伝承』</p> <p>⑩五来重『中世地方史と民俗学』（『郷土史研究講座』3）</p> <p>⑩小野重朗『農耕儀礼の研究』</p> <p>⑩竹田旦『末子相続研究の方法について——野口武徳氏の『仮説』に寄せて——』（民俗学評論5）</p> <p>⑩桜田勝徳『海の宗教』</p> <p>⑩北見俊夫『旅と交通の民俗』</p> <p>⑩～1973⑨宮田登『民間信仰の研究動向』（民俗学評論5～10）</p> <p>⑩宮田登『生き神信仰——人を神に祀る習俗——』</p> <p>⑩原田敏明『宗教と民俗』</p> <p>⑩北見俊夫『市と行商の民俗』</p> <p>⑩橋本鉄男『木地屋の移住史』</p> <p>②『南方熊楠全集』（全10巻別巻2）刊行開始（～1975⑧）。</p> <p>③竹田聰洲『民俗仏教と祖先信仰』</p> <p>③窪徳忠『沖縄の習俗と信仰——中国との比較研究——』</p> <p>③『菅江真澄全集』刊行開始。</p> <p>⑧桜井徳太郎『民間信仰と現代社会——人間と呪術——』</p> <p>⑨佐藤米司『葬送儀礼の民俗』</p> <p>⑨山口弥一郎『民俗学の話』</p> <p>⑩翌年④『まつり』18, 19「修験と芸能」を特集。</p> <p>⑩大塚民俗学会年会にシンポジウム「隣接諸科学からみた民俗学」を開催。報告は</p>

- 1972 47 おける個別性と普遍性——柳田国男とマリオン・リーヴィー——」(思想の科学124)
- ④伊藤幹治編『柳田国男』(現代のエスプリ57)
- ⑥有泉貞夫「柳田国男考」(展望162)
- ⑨庄司和晃『柳田学と教育——柳田教育序説——』
- ⑨有賀喜左衛門総序——渋谷敬三と柳田国男・柳宗悦——」(『日本常民生活資料叢書』1)
- ⑨臼井吉見編『柳田国男回想』
- ⑩『ピエロタ』16「柳田国男の民俗思想とその位相」を特集。
- ⑪牧田茂『柳田国男』
- ⑫後藤総一郎『柳田国男研究序説』
- ⑫後藤総一郎編『人と思想・柳田国男』
- 1973 48 ①『国文学解釈と教材の研究』18-1「柳田国男と折口信夫」を特集。山口昌男「柳田・折口における周辺の現実——民俗学と人間科学——」, 益田勝実「柳田・折口における原初的なものへの照射」等。
- ②『季刊柳田国男研究』創刊。橋川文三・色川大吉・川村二郎他座談会「柳田学の形成と主題」
- ③後藤総一郎「常民論ノート」(情況54)
- ③神島二郎『柳田国男研
- 福田アジオ「歴史学と民俗学」, 千葉徳爾「地理学と民俗学」, 白井宏明「社会学と民俗学」, 山路勝彦「人類学と民俗学」→翌年⑥『民俗学評論』8に収録。
- ①宮田登『近世の流行神』
- ①柴田道子『被差別部落の伝承と生活——信州の部落・古老聞き書き——』
- ①大間知篤三他編『民俗の事典』
- ②大塚民俗学会編『日本民俗事典』
- ⑤佐々木高明『日本の焼畑』
- ⑥昔話研究懇話会『昔話——研究と資料——』(年刊)創刊
- ⑧⑨桜井徳太郎「歴史民俗学の構想——郷土における民俗像の史的復元——」(信濃24-8・9)
- ⑧⑫, 翌年⑧ 安間清「日本民俗学の将来に望む」(信濃24-8・12, 25-8)
- ⑨小野重朗『十五夜綱引の研究』
- ⑨吉田禎吾『日本の憑きもの』
- ⑨『日本常民生活資料叢書』(全24巻)刊行開始。戦前の「アチックミュージアム彙報」の再録。
- ⑫瀬川清子『若者と娘をめぐる民俗』
- ①『日本の民俗』(全47巻)刊行開始。県別の民俗案内書。
- ③日本民族学会編『沖縄の民族学的研究——民俗社会と世界像——』
- ③北見俊夫『日本海上交通史の研究』
- ③千葉徳爾「いわゆる『郷土研究』と民俗学の方法」(愛知大学総合郷土研究所紀要18)
- ④中井信彦『歴史学的方法の基準』
- ⑥庄司和晃『コトワザ学と柳田学——大衆の論理と民間教育法——』
- ⑥村武精一『家族の社会人類学』
- ⑥直江広治・桜井徳太郎・竹田旦・佐藤信行ら座談会「柳田民俗学と朝鮮」(柳田国男研究2)
- ⑦桜井徳太郎『沖縄のシャマニズム』
- ⑦大胡欽一・宮良高弘『沖縄の伝統文化』

- | | | | |
|------|----|---|---|
| 1974 | 49 | <p>究』主要論文の再録。</p> <p>④大藤時彦『柳田国男入門』</p> <p>⑦神島二郎・伊藤幹治編『シンポジウム柳田国男』</p> <p>⑨『柳田国男研究』3「柳田国男と柳宗悦」を特集。</p> <p>⑫岩崎敏夫『柳田先生と私の細道——東北の民俗文化——』</p> <p>①『柳田国男研究』4「柳田国男と農政思想」を特集。</p> <p>④『柳田国男研究』5「柳田国男と南方熊楠」を特集。</p> <p>⑦柴田実「柳田国男とハイネの『諸神流竄記』」(日本民俗学94)</p> | <p>(現代のエスプリ72)</p> <p>⑧倉石忠彦「団地アパートの民俗」(信濃25-8)</p> <p>⑨宮田登「白のフォークロア」(情況62)</p> <p>⑩戸川安章『出羽三山修験道の研究』</p> <p>⑪大塚民俗学会年会シンポジウム「地方史と民俗学」を開催。報告は佐久間惇一「新潟県における地方史と民俗学」、芳賀登「地方史と民俗学」、福田アジオ「民俗学における『地方』と地方史研究」→翌年⑩『民俗学評論』11に収録。</p> <p>①『伝統と現代』25「日本フォークロアの先駆者」を特集。</p> <p>②『地方史研究』127「地方史研究と民俗学の視点」を特集。阿部猛「地方主義運動と民俗研究」、福田アジオ「柳田国男の方法と地方史研究」、沖本常吉「民俗土着性の計測」等を収録。</p> <p>③野口武徳・宮田登・福田アジオ編『現代日本民俗学Ⅰ意義と課題』重要論文の再録。</p> <p>④松田修「〈常民〉の人類学的構造」(柳田国男研究5)</p> <p>④『伊波普猷全集』(全9巻)刊行開始(～翌年⑪)。</p> <p>④白田甚五郎編『口承文芸の総合研究』</p> <p>⑤宮田登『原初的思考——白のフォークロア——』</p> <p>⑤伊藤幹治『稲作儀礼の研究——日琉同祖論の再検討——』</p> <p>⑦中村たかを編『民具——日本人の生活の知恵と意匠——』(現代のエスプリ84)</p> <p>⑦『日本民俗誌大系』(全12巻)刊行開始。</p> <p>⑦関敬吾・中井信彦・桜井徳太郎・村武精一・福田アジオ・谷川健一・伊藤幹治・後藤総一郎・宮田登座談会「民俗学の方法を問う」(柳田国男研究6)</p> <p>⑦『柳田国男研究』6「論集今日の民俗学」を特集。向山勝貞「民俗調査のあり方」、和田正洲「民俗の変貌に対処して」、倉石忠彦「都市民俗学の方法」、北見俊夫「民</p> |
|------|----|---|---|

⑧後藤総一郎『常民の思想——民衆思想史への視角——』

⑩『柳田国男研究』7「柳田国男と沖縄」を特集。

⑩翌年④桜井徳太郎「柳田国男の祖先観」(柳田国男研究7, 8)

④『柳田国男研究』8「柳田国男の百年を問う」を特集。「論集・柳田学の批判と継承」と題して17人の小論収録。

④有賀喜左衛門「『聲入考』と柳田国男」(柳田国男研究8)

④『現代思想』3-4「柳田国男その方法と主題」を特集。有賀喜左衛門「柳田国男の研究方法について」、住谷一彦「柳田国男ノート」、宮田登「柳田民俗学における『仏教』」等収録。

④伊藤幹治『柳田国男——学問と視点——』

⑥後藤総一郎編『柳田国男の学問形成』

⑦『伝統と現代』34「思想史の柳田国男」を特集。

俗学と経済領域」, 藤井正雄「宗教民俗学の方角」, 小島環礼「昔話論のための覚書」, 宮田登「比較民俗学の基準」, 後藤総一郎「思想史における民俗学」を収録。

⑧石川純一郎『河童の世界』

⑩上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登編『民俗調査ハンドブック』

⑩酒井卯作「柳田民俗学と沖縄研究の周辺」(柳田国男研究7)

⑪桜井徳太郎『日本のシャマニズム』上(下は1977③)

⑪国学院大学日本文化研究所編『神道要語集』祭祀篇1

⑪大塚民俗学会年会シンポジウム「民俗地図をめぐる」を開催。報告は木下忠「民俗地図をめぐる」, 和田正洲「文化庁の『日本民俗地図』」, 関敏吾「民俗学研究における民俗地図の問題」→翌年⑩『民俗学評論』13に収録。

①『大間知篤三著作集』(全6巻)刊行開始(～1982②)。

②井之口章次『日本の俗信』

②千葉徳爾『狩獵伝承』

③原田敏明『村の祭祀』

④宮本馨太郎編『民具資料調査整理の実務』

⑤野口武徳・宮田登・福田アジオ編『現代日本民俗学II 概念と方法』

⑧『日本民俗学』100「日本民俗学の研究動向」を特集。和歌森太郎「総説——方法上の問題——」, 竹内利美「村制・族制」, 最上孝敬「人生儀礼」, 瀬川清子「衣・食・住」, 宮本常一「生業の構成」, 平山敏治郎「年中行事」, 柴田実「民間信仰」, 本田安次「民俗芸能」, 大島建彦「口承文芸」過去15年間の分野別研究動向。

⑧村武精一『神・共同体・豊穰——沖縄民俗論——』

⑧高取正男『日本的思考の原型——民俗学の視角——』

⑨西垣晴次編『民俗資料調査整理の実務』

⑪大塚民俗学会年会シンポジウム「民俗学からみた物質文化」を開催。報告は湯川

1976	51	<p>⑦柳田国男生誕百年記念の日本民俗学会年会開催。</p> <p>⑦藤井隆至編『柳田国男農政論集』</p> <p>⑩和歌森太郎『柳田国男と歴史学』</p> <p>③橘川俊忠「否定的媒介としての柳田学——マルクス主義と柳田学についての一考察——」(現代の理論146)</p> <p>⑤伊藤幹治・米山俊直編『柳田国男の世界』</p> <p>⑤『柳田国男』(日本文学研究資料叢書・解説宮田登)</p> <p>⑤『柳田国男』(文芸読本)</p> <p>⑤有賀喜左衛門『一つの日本文化論——柳田国男に関連して——』</p> <p>⑥ロナルド・モース「柳田民俗学のイギリス起源」(展望210)</p> <p>⑦岩本由輝『柳田国男の農政学』</p> <p>⑩橘川俊忠「柳田国男におけるイエ・クニ・国家——家族国家論の再検討——」(国家論研究10)</p> <p>⑩鶴見和子「漂泊と定住と——柳田国男のみた自然と社会とのむすび目——」(展望214)</p> <p>⑪後藤総一郎『柳田学の思想的展開』</p>	<p>洋司「民具研究の方法」, 田辺悟「民具の定義(概念規定)」, 天野武「民俗学における民具研究」→翌年⑩『民俗学評論』15に収録。</p> <p>⑪馬淵東一「民俗学と民族学——柳田国男生誕百年記念国際シンポジウムによせて——」(社会人類学年報1)</p> <p>③『演劇学』17「民俗芸能研究文献目録」を特集。</p> <p>④五来重『仏教と民俗——仏教民俗学入門』</p> <p>⑤和歌森太郎・桜井徳太郎・竹田旦編『日本民俗学講座』(全5巻)刊行開始(～⑩)。</p> <p>⑦『日本民俗学』106「民俗博物館特集号」</p> <p>⑦～⑨竹内利美編『信州の村落生活』(全3巻)</p> <p>⑨江守五夫『日本村落社会の構造』</p> <p>⑨高取正男「日本史研究と民俗学」(『岩波講座日本歴史』別巻2)</p> <p>⑩原田敏明『村祭と座』</p> <p>⑩倉石忠彦「都市と民俗学」(信濃28～10)</p> <p>⑩⑪高崎正秀・池田弥三郎・牧田茂編『日本民俗学の視点』全3巻</p> <p>⑩日本民俗学会第28回年会(於福島市)シンポジウム「地域と民俗博物館」開催。報告は土井卓治「北欧の野外民俗博物館」, 尾島利雄「民俗博物館と地域研究」, 滝沢秀一「津南町歴史民俗資料館」→翌年①『日本民俗学』109に収録。</p> <p>⑩小田晋・佐藤親次・高江洲義英・昼田源四郎「民俗学と精神医学」(精神医学18～10)</p> <p>⑪大塚民俗学会年会シンポジウム「都市と民俗学」開催。報告者は中村孚美・北見俊夫・萩原竜夫→1978③『民俗学評論』16に収録。</p> <p>②桜井徳太郎『靈魂観の系譜——歴史民俗学の視点——』</p> <p>②関敬吾『日本の昔話——比較研究序説——』</p>
1977	52	<p>②岡谷公二『柳田国男の青春』</p>	

- ④村上信彦『高群逸枝と柳田国男——婚制の問題を中心に——』
- ⑥鶴見和子『漂泊と定住と——柳田国男の社会変動論——』
- ③『文学』45-3「民俗芸能」を特集。三隅治雄「民俗芸能研究の歴史」、本田安次「能の発生——巫女舞から能へ——」等。
- ⑥宮田登『民俗宗教論の課題』
- ⑧宮田登「都市民俗学への道」(木代修一先生喜寿記念論文集3『民族史学の方法』)
- ⑨山下欣一『奄美のシャーマニズム』
- ⑨『日本民俗学』112で「日本民俗学の研究動向(昭和50, 51年)」を特集。
- ⑨『日本民俗学』113で「民俗誌」を特集。岩崎真幸・鈴木通大・松田精一郎・山本質素「〈民俗誌〉の系譜」、山口麻太郎「民俗誌私論」、千葉徳爾「民俗誌の目的」、井之口章次「民俗誌小考」、竹田旦「民俗誌と民俗学」等。
- ⑩第29回日本民俗学会年会で会則が改定され、評議員の会員による直接選挙制が採用される。
- ⑪大塚民俗学会年会シンポジウム「仏教と民俗学」開催。報告は坂本要「柳田国男の仏教観」、佐野賢治「仏教民俗学の課題と方法」、藤井正雄「仏教民俗と仏教民俗学」→79⑥『民俗学評論』17に収録。
- ⑫稲田・大島・川端・福田・三原編『日本昔話事典』
- ⑫住谷一彦、クライナー・ヨーゼフ『南西諸島の神観念』
- ①③平山和彦『青年集団史研究序説』(上・下)
- ②関敬吾『日本昔話大成』(全12巻)刊行開始(～1980⑨)。
- ③天野武『若者組の研究——能登柴垣の若者組——』
- ③岩本通弥「都市民俗学の予備的考察」(民俗学評論16)
- ③金沢民俗をさぐる会『都市と民俗研究』創刊。
- ③下野敏見「南日本の来訪神」(日本民俗学115)
- ③坂内徳明「ソ連民俗学の現在」(民族学研究42-4)
- ④千葉徳爾『民俗学のこころ』
- ②色川大吉『柳田国男・常民文化論』(日本民俗文化大系1)
- ④庄司和晃『柳田国男と教育——民間教育学序説——』

1979

54

- ⑤福富正実『日本マルクス主義と柳田農政学——日本農政学の伝統と封建論争——』
- ⑦岩本由輝『柳田国男の共同体論——共同体論をめぐる思想的状況——』
- ⑧宮崎修二郎『柳田国男その原郷』
- ④高橋統一『宮座の構造と変化——祭祀長老制の社会人類学的研究——』
- ④安間清『虹の話——比較民族学的研究——』
- ⑥網野善彦『無縁・公界・楽——日本中世の自由と平和——』
- ⑥田中久夫『祖先祭祀の研究』
- ⑦宮田登『日本の民俗学』
- ⑧上野和男他編『民俗研究ハンドブック』
- ⑧『講座日本の民俗』（全9巻）刊行開始（～1980⑩）。
- ⑧米山俊直・田村善次郎・宮田登編『民衆の生活と文化』
- ⑩日本民俗学会編『日本民俗学の課題』1975⑦開催柳田国男生誕百年記念研究発表会報告書。
- ⑩第30回日本民俗学会年会（於奈良市）でシンポジウム「地方史誌編纂と民俗学」開催。報告は石川純一郎「地方史誌編纂と民俗学」、岩井宏実「民俗学と地方史研究」、和田正洲「地方史誌編纂と民俗学」、西垣晴次「市町村史・誌と民俗誌的記述」→翌年②『日本民俗学』121に収録。
- ⑪『国学院雑誌』79-11「折口信夫研究」を特集。
- ⑪大塚民俗学会年会シンポジウム「教育と民俗学」開催。報告は森茂岳雄「教育と民俗学」、庄司和晃「民俗学的成果の普通教育への具体化」、都九十九「教育と民俗」→1980⑩『民俗学評論』18, 19収録。
- ⑫竹田旦編『民俗学関係雑誌 文献総覧』
- ①小野重朗「コトとその周囲」（日本民俗学120）
- ②高谷重夫「雨乞法の類型」（日本民俗学121）
- ②茂木栄「都市化社会における民俗学の役割」（日本民俗学121）
- ②橋本鉄男「漂泊生業論への視覚」（日本民俗学121）
- ②杉原丈夫「理論民俗学の開拓を」（日本民俗学121）
- ②小野重朗「民俗地図による地域研究」（日

⑦牧田茂編『評伝柳田国男』

⑧佐藤良博「柳田国男と社会科教育」(常民文化研究3)

⑪宮崎修二郎『柳田国男アルバム・原郷』

本民俗学121)

- ③『教育科学・社会科教育』186「地域の民俗資料を生かす授業の構想」を特集。
- ③『日本民俗学』122「社会科と民俗学」を特集。北見俊夫「民俗学教育の一試論」、小野寺正人「改訂学習指導要領の日本史学習と民俗学」、都丸十九一「中学校社会科と民俗学」等。
- ④民俗文化財研究会『民俗文化財の手びき——調査・収集・保存・活用のために』
- ④高取正男『神道の成立』
- ⑧『日本民俗学』123「折口信夫の民俗学」を特集。
- ⑧相模民俗学会『民俗学論叢』創刊。
- ⑧平山和彦「民俗学と共同体」(経済評論28-8)
- ⑨瀬川清子・植松明石編『日本民俗学のエッセンス——日本民俗学の成立と展開』
- ⑨五来重他編『講座日本の民俗宗教』(全7巻)刊行開始(一翌年④)。
- ⑨宮田登『神の民俗誌』
- ⑨『日本民俗学』124「日本民俗学の研究動向(昭和52, 53年)」を特集。
- ⑩第31回日本民俗学会年会シンポジウム「仏教と民俗学」開催。報告は木村博「卯月八日の習俗をめぐる」、伊藤唯真「卯月八日の民俗と仏教」、宮家準「修験道の峰入と卯月八日」→翌年⑦『日本民俗学』128に収録。
- ⑩倉石忠彦「民俗分布図と民俗地図と」(長野県民俗の会会報2)
- ⑩大塚民俗学会年会シンポジウム「教育と民俗学(2)——高校教育を中心に——」開催。報告は宮沢嘉夫「高等学校現場からの発言」、河上一雄「高等学校教育と民俗学」、谷川彰英「社会認識の形成と民俗学」→1981⑫『民俗学評論』20, 21に収録。
- ⑫坪井洋文『イモと日本人——民俗文化論の課題——』
- ①根岸謙之助『しつけと遊びの民俗』
- ①牧田茂「都市と民俗学」(市政330)
- ②宮田登他編『民俗学文献解題』

⑤伊藤幹治「柳田国男の
家族学説」(家族史研究
1)

⑨安間清『柳田国男の手
紙——ニソの杜民俗誌
——』

- ③宮本袈裟雄「民俗学と地域研究」(信濃32-3)
- ③『歴史公論』52「日本の民俗と仏教」を特集。
- ③『桜田勝徳著作集』(全7巻)刊行開始(～1982②)。
- ③, 翌年③小川直之「関東地方における摘田の伝承」(自然と文化3, 4)
- ④赤田光男『祭儀習俗の研究』
- ⑤上野和男「昭和初期における家族研究の展開——柳田国男と大間知篤三を中心として——」(家族史研究1)
- ⑤日本民俗学会編『日本民俗学文献総目録』
- ⑤名古屋民俗研究会編『性と民俗』
- ⑥『和歌森太郎著作集』(全15巻, 別巻1)刊行開始(～1982⑨)。
- ⑥木村龍生『序章のフォークロア』
- ⑥天野武『若者の民俗——若者と娘をめぐる習俗——』
- ⑦日本民俗学会学校教育特別委員会編「全国大学・短大等民俗学関係講義設置状況調査結果一覧」(日本民俗学128)
- ⑦『日本民俗学』129「城下町の民俗」を特集。
- ⑧野口武徳『南島研究の歳月——南島と民俗学との出会い——』
- ⑧井之口章次「産神としての厩神」(日本民俗学130)
- ⑧鈴木満男「清明と卯月八日」(日本民俗学130)
- ⑧小野重朗「夏正月と大隅の民俗」(日本民俗学130)
- ⑧赤松啓介「村落共同体と性的規範」(ドルメン26)
- ⑨千葉徳爾編『日本民俗風土論』
- ⑩坪井洋文「ヤマとサトの民俗学」(神道宗教100)
- ⑩『関敬吾著作集』(全9巻)刊行開始(～1982⑤)。
- ⑩原田敏明『村の祭と聖なるもの』
- ⑩第32回日本民俗学会年会(於金沢市)シンポジウム「都市の民俗——城下町を中

心に」開催。報告は小林忠雄「伝統都市における民俗の構造」，岩本通弥「蔦の社会史」，倉石忠彦「マチの民俗と民俗学」→翌年④『日本民俗学』134に収録。

⑩『谷川健一著作集』(全7巻)刊行開始。

⑪『国学院雑誌』81-11「日本文化と祭り」を特集。

⑫大塚民俗学会年会シンポジウム「民俗の〈変貌〉をめぐって」開催。報告は飯島吉晴「運動会のフォークロア」，白井宏明「『ムラ』の解体と民俗」→翌年⑫『民俗学評論』20, 21に収録。

(国立歴史民俗博物館 民俗研究部客員教官)